

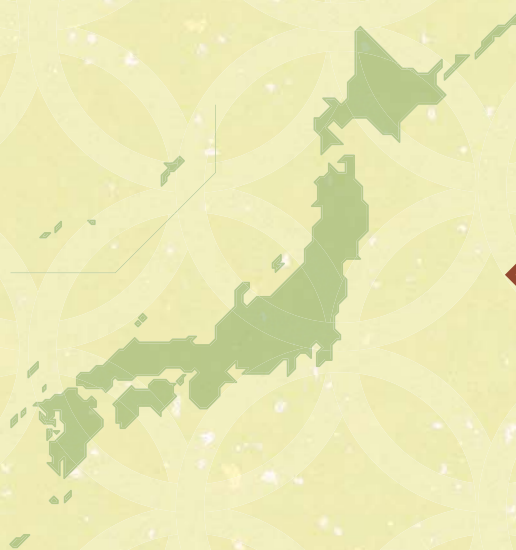
平成 29 年度

第 32 回

精 選

ふるさと

手づくり郷土賞



大賞
部門

一般
部門



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure and Transport

平成 29 年度

第 32 回
精選

ふるさと 手づくり郷土賞

手づくり郷土賞について

4

手づくり郷土賞グランプリ 2017 ～磨いて 光った 郷土自慢～

6

講評

全体講評 10

選定委員講評 11

大賞部門

① 「多摩川エコミュージアムプランの推進」人をつなげる森と川
～ニヶ領せせらぎ館をまちの広場に～ 神奈川県川崎市 14

② 万代中央ふ頭（音楽が紡ぐ港の魅力発信） 徳島県徳島市 16

③ 海と街とのやさしい出会い
～やすらぎの空間を求めて～ “かんたん” みなとまちづくり 大分県大分市 18

一般部門

① 古き良きものを守る～国境の街 稚内の歴史的建造物の保存とまちづくり～ 北海道稚内市 20

② 「骨寺村荘園遺跡」等の保全と地域の活性化を目指す活動 岩手県一関市 22

③ 石巻南浜津波復興祈念公園における市民の伝承活動 宮城県石巻市 24

④ 渡良瀬遊水地の未来に向けて
茨城県古河市、栃木県栃木市・小山市・野木町、群馬県板倉町、埼玉県加須市 26

⑤ 100年の景観づくり「枝垂れ桜の咲く里への回り道」 新潟県糸魚川市 28

⑥ うしづま水辺の楽校 子供達のたくさんの笑顔、オクシズの魅力アップを目指す 静岡県静岡市 30

⑦ かのがわ風のテラス 静岡県沼津市 32

⑧ 須磨ニュータウン周辺の森を整備し、癒しの森（場）づくり 兵庫県神戸市 34

⑨ 坂越浦の礎を築いた北前船廻船物語 兵庫県赤穂市 36

⑩ 住民自治で創る川西のまちづくり
～1200人を支え、100人が働き、170人が関わり、30万人が訪れる郷へ～ 広島県三次市 38

⑪ 重信川河口域の湿地環境保全 ～高校生の取り組み～ 愛媛県松山市・松前町 40

⑫ 水辺空間を活かしたまちづくり～番田河原の利活用と地域の連携等～ 福岡県田川市 42

⑬ 球磨川のほとりに咲くツクシイバラ～100年後の人々に届けたい～ 熊本県錦町 44

⑭ 河津桜に夢をのせて～浦々をつなぐピンクの櫛～ 大分県津久見市 46

⑮ 野焼きによる感動の景観づくり 大分県九重町 48

⑯ 公園での「まつり」と周辺の「やすらぎ」空間の創出 沖縄県名護市 50

資料編

年度別テーマ一覧 52

選定案件一覧 54

精選

ふるさと 手づくり郷土賞

大賞部門
一般部門



5 100年の景観づくり「枝垂れ桜の咲く里への回り道」



8 須磨ニュータウン周辺の森を整備し、癒しの森(場)づくり



9 坂越浦の礎を築いた北前船廻船物語



10 住民自治で創る川西のまちづくり
～1200人を支え、100人が働き、
170人が関わり、30万人が訪れる郷へ～



15 野焼きによる感動の景観づくり



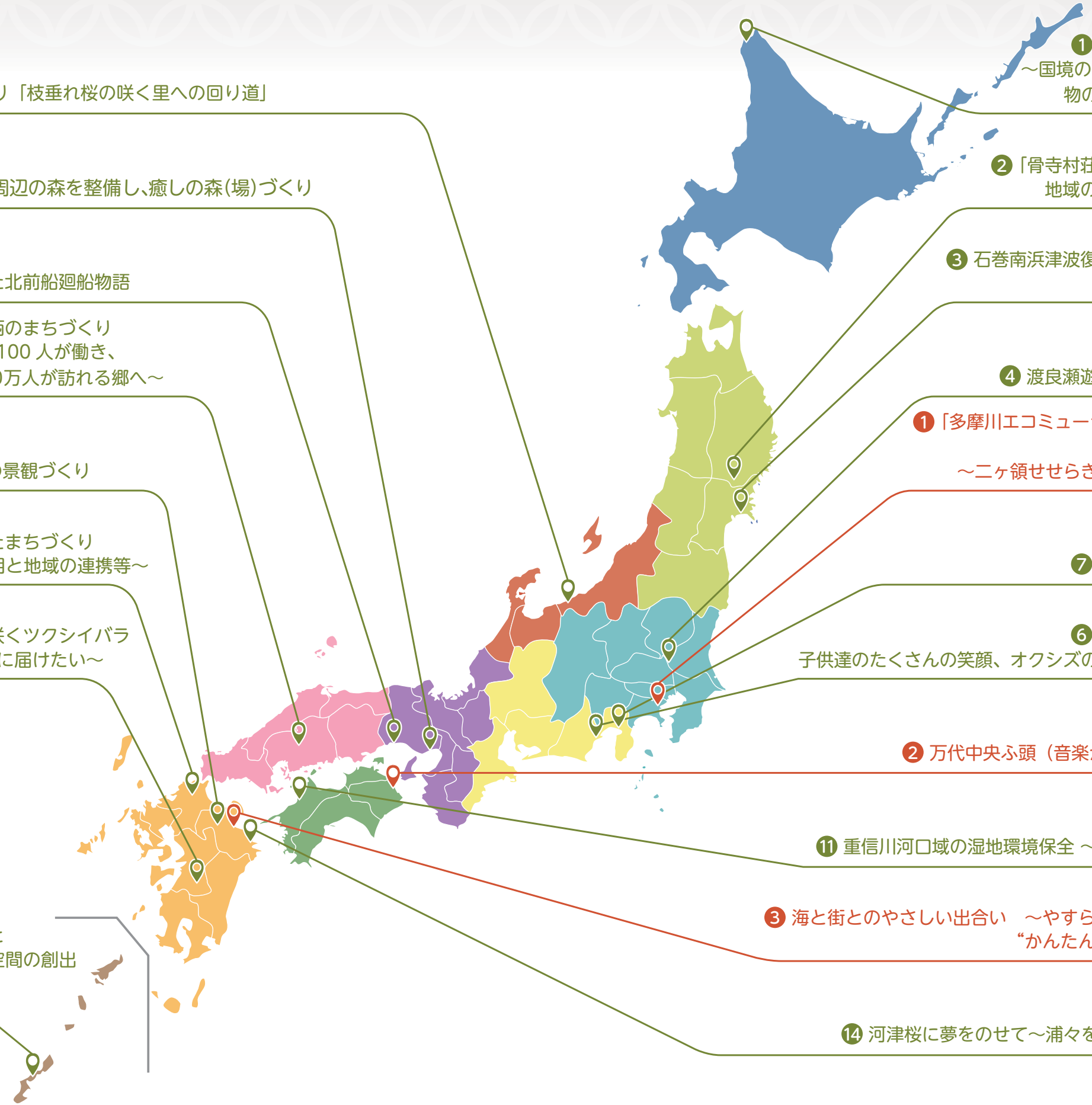
12 水辺空間を活かしたまちづくり
～番田河原の利活用と地域の連携等～



13 球磨川のほとりに咲くツクシイバラ
～100年後の人々に届けたい～



16 公園での「まつり」と
周辺の「やすらぎ」空間の創出



1 古き良きものを守る
～国境の街 稚内の歴史的建造
物の保存とまちづくり～



2 「骨寺村荘園遺跡」等の保全と
地域の活性化を目指す活動



3 石巻南浜津波復興祈念公園における
市民の伝承活動



4 渡良瀬遊水地の未来に向けて



1 「多摩川エコミュージアムプランの推進」
人をつなげる森と川
～二ヶ領せせらぎ館をまちの広場に～



7 かのがわ風のテラス



6 うしづま水辺の楽校
子供達のたくさんの笑顔、オクシズの魅力アップを目指す



2 万代中央ふ頭（音楽が紡ぐ港の魅力発信）



11 重信川河口域の湿地環境保全 ～高校生の取り組み～



3 海と街とのやさしい出会い ～やすらぎの空間を求めて～
“かんたん” みなとまちづくり



14 河津桜に夢をのせて～浦々をつなぐピンクの樺～



手づくり郷土賞ふるさとについて

「手づくり郷土賞」の背景 および目的

日本の各地で、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として見直し積極的に活用した、魅力ある地域づくりの事例が数多く生まれてきています。

「手づくり郷土賞」は、このような地域活動によって地域の魅力や個性を生み出している良質な社会資本とそれに関わった団体のご努力を表彰するものです。また、これらの好事例を広く紹介することで、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

「手づくり郷土賞」は昭和61年度に創設され、平成29年度で32回目の開催となる国土交通大臣表彰です。

平成29年度は、地域の魅力や個性を生み出している、社会資本※及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果を表彰する「手づくり郷土賞（一般部門）」、これまでに「手づくり郷土賞」を受賞したもののうち、なお一層の活動の充実が行われるなど地域づくりに貢献しているものを表彰する「手づくり郷土賞（大賞部門）」の2部門にて実施しました。

このほか、「手づくり郷土賞グランプリ2017～磨いて 光った 郷土自慢～」を開催し、受賞団体の中から、一般部門・大賞部門それぞれのグランプリと、ベストプレゼン賞を決定しました。

※原則として社会資本は国土交通省が所管するもの

「手づくり郷土賞」の 選定対象

◆「手づくり郷土賞（一般部門）」 （募集対象）

地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりのある地域活動が一体となった成果

（選考のポイント）

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫（地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成等）
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性（新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等）
- ③地域づくりへの成果及び波及効果（地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等）
- ④今後の活動の継続性・発展性（住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等）
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他（上記以外の特に優れた内容）

◆「手づくり郷土賞（大賞部門）」 （募集対象）

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した、社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果（たとえば、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含み内容が更に充実している成果、これまでに受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を核とした周辺エリアを含む成果など）

（選考のポイント）

一般部門の選考のポイントに加え、大賞部門においては以下のポイントも重視しています。

- ⑦社会資本の地域への定着状況（地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に利用している等）
- ⑧活動の継続状況（規模を広げながら着実に継続している等）
- ⑨活動の発展状況（新たな取組を創出している、他地域へ波及している等）

募集方法と選定

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募するものとします。地方整備局等で受け付けた応募資料をもとに、学識者等からなる「手づくり郷土賞」選定委員会による厳正な審査をした上で成果を選定します。

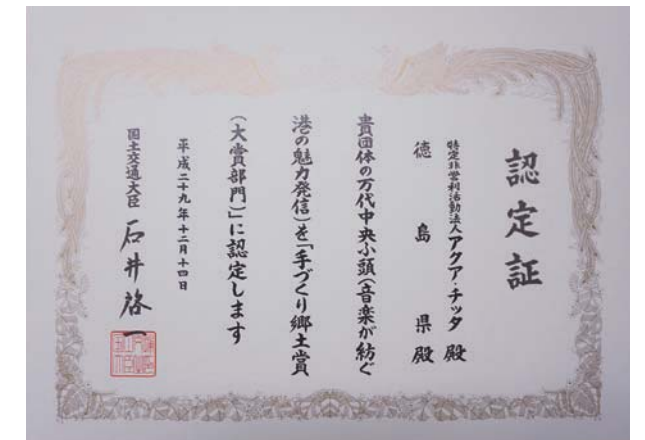
選定結果

平成29年6月から9月にかけて募集を行い、全国から「手づくり郷土賞（一般部門）」に32件、「手づくり郷土賞（大賞部門）」に5件、合計37件の応募がありました。

平成29年12月に開催された「手づくり郷土賞選定委員会」において、各選定委員により様々な観点から選考が行われ、「手づくり郷土賞（一般部門）」に16件、「手づくり郷土賞（大賞部門）」に3件、合計19件が選定されました。

認定証の交付

受賞団体には、各地方整備局長などを通じて、認定証が授与されるとともに、副賞として盾が贈呈されました。



認定証



副賞（盾）

手づくり郷土賞グランプリ 2017

～磨いて 光った 郷土自慢～

手づくり郷土賞グランプリ 2017の概要

昭和61年度に創設された国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」は、平成29年度で32回目を迎えました。

32回目となる平成29年度は、「手づくり郷土賞グランプリ2017 ～磨いて 光った 郷土自慢～」を開催する運びとなりました。グランプリでは、平成29年度手づくり郷土賞の選定団体全19団体からプレゼンテーションいただき、手づくり郷土賞選定委員会の選考により、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定しました。また、グランプリのほか、会場参加者の投票により、ベストプレゼン賞も決定しました。

【手づくり郷土賞グランプリ2017の概要】

目的：手づくり郷土賞に選定された優れた地域づくり活動を広く紹介することにより、各地で个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が推進されることを目的として開催

日時：平成30年1月28日（日）

12時30分～15時40分

場所：発明会館 地下ホール

（東京都港区虎ノ門2-9-14）

参加者：180人

グランプリ2017の開催結果

1. 開会挨拶

齋藤委員長から開会挨拶をいただきました。

2. ルール説明

総合政策局の鈴木事業総括調整官が司会を務め、ルールや注意事項を説明しました。

＜グランプリ等受賞団体の決定方法＞

手づくり郷土賞グランプリ2017では、受賞団体の中から、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定します。また、会場の皆さんからの投票により、ベストプレゼン賞を決定します。

(1) グランプリ（一般部門、大賞部門）

- ・グランプリについては、一般部門、大賞部門の各部門で、最も優れている活動を選定委員の合議により決定します。
- ・選定委員は、各団体からのプレゼン及び応募資料を踏まえ、下記に示す評価のポイントにより、総合的に評価します。

＜評価のポイント＞

- ① 活動内容が優れていたか。
- ② 活動内容や活動の意気込みが伝わったか。
- ③ プレゼンが工夫されていておもしろかったか。

(2) ベストプレゼン賞

- ・ベストプレゼン賞については、会場の皆様から投票いただき、部門を問わず、最も獲得票の多い団体に決定します。

手づくり郷土賞グランプリ2017

～磨いて 光った 郷土自慢～



（委員長挨拶）

3. 応募団体によるプレゼンテーション

各団体から活動のプレゼンテーション（発表3分、質疑3分）をしていただきました。



（プレゼンの様子）



（会場の様子）

4. グランプリ等受賞団体の発表・講評

すべての団体のプレゼンテーションが終わった後、会場からの投票・集計、選定委員によるグランプリの審査を行い、齋藤委員長より受賞団体の発表を行いました。受賞団体からは一言ずつ感想いただき、最後に選定委員から講評をいただきました。

＜受賞団体の発表・感想＞

グランプリ2017（大賞部門）

■万代中央ふ頭（音楽が紡ぐ港の魅力発信）

特定非営利活動法人アクア・チッタ／徳島県



熱い思いをもって地域づくりに取り組んでいる方々が多くおられる中でグランプリを受賞できてうれしいです。自分たちの活動の特徴は皆楽しんで活動をしていること。だから継続できている。これからも活動の幅を広げていきたい。

グランプリ2017（一般部門）

■かのがわ風のテラス

沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会



沼津を訪れる観光客に立ち寄りいただき、地域を盛り上げたいという思いだけで活動を推進してきた。そのことが評価されたことはとても励みになる。まだまだこれからの取り組みであり、引き続き頑張りたい。

ベストプレゼン賞2017

■球磨川のほとりに咲くツクシイバラ

～100年後の人々に届けたい～

球磨川ツクシイバラの会／錦町



ツクシイバラの花がきれいに咲くよう、また訪れた人が優しい気持ちになってもらえるよう清掃活動等を行ってきた。同じく活動をしてきた仲間と一緒にこのような賞を受賞できてうれしいです。

<選定委員の講評>

齋藤委員長



大賞部門、一般部門ともに、都市の水辺の賑わいを再生し、今まで市民があまり立ち入る機会がなかった場所を、都市活動の一拠点に転換している。商店、企業などを巻き込んで継続性を上手に担保しながら、創造性を盛り込んでわくわくするような場を生み出している点が、選定委員によって高く評価された。

荻原委員



グランプリを選ぶのが非常に苦しい作業と言わざるを得ないほど、コツコツと一人で始めた方や街を変えていった姿など、聞いているだけでこちらも元気をいただけるような発表ばかりで、とても楽しい時間であった。

鈴木委員



今回は、19の街づくりの素晴らしいストーリーを聞かせていただいた。毎回、プレゼンテーションを聞くたびに、自分も頑張ろうと、元気をもらっている。古い歴史ある風景を維持する活動や補助金に頼らない活動等、地域のお手本となって広がっていくことを期待している。

関委員



手づくり郷土賞の原点というのは、地域をどうしたいのか、故郷をどうしたいのかというたった一人の想いから始まったのだ、ということ胸に刻んで聞いていた。今回のプレゼンを聞いたことで新しい考え、アイデアが浮かんだのではないかなと思う。是非事業を継続させていって頂きたい。

平野委員



皆さんの活動のプレゼンを聞くと、なるほどと思うことが多くある。グランプリを受賞された方々の活動が素晴らしい活動ということではなく、こうして皆さんの地域で皆さんが取り組んでいる活動一つ一つが素晴らしいということをお願いしたい。

由木委員



どこも行ってみたいと思える素晴らしいプレゼンであった。その中で一つのことを志して始める大切さや、その志を周りに広げていく力の大切さを感じた。色々な面で私自身が勉強になった。是非この取り組みを続けていただいて、大賞の場でまた、評価できることを大変心待ちにしている。

5. 記念撮影

参加いただいた団体、選定委員の皆さんで記念撮影を行いました。



(受賞団体との記念撮影)



(発表団体全員との記念撮影)

Facebook ページによる
配信

手づくり郷土賞グランプリ 2017 の開催にあたり、参加者や関心のある方に少しでも団体の活動を知っていただくため、Facebook ページにより、事前に各団体の活動 PR を配信しました。また、当

日にはグランプリの様子を配信しました。

(手づくり郷土賞 Facebook ページ)

<https://www.facebook.com/mlit.tedukuri/>

全体講評

手づくり郷土賞は、昭和 61 年度に創設され、平成 29 年度で 32 回目を迎えます。今年度も、全国各地から、数多くの優れた取組の応募をいただきました。それぞれの地域を良くしていこうという想いが伝わってきて、甲乙付けがたいものばかりでした。

今年度も、昨年度に引き続き「手づくり郷土賞 グランプリ 2017～磨いて 光った 郷土自慢～」を開催しました。グランプリでは、手づくり郷土賞の受賞団体の皆様にプレゼンテーションを行っていただき、団体の熱意や思いに触れることができ、選定委員会としても大変有意義で貴重な時間を過ごすことができました。

また、グランプリに参加した多くの団体の方々から、「他の団体の活動を聞いて大変有意義であった」などのご意見をいただきました。このような有意義な時間を共有できたことは、ひとえに受賞団体の皆様のおかげです。改めて感謝申し上げます。

今後も、受賞された団体および地域においては、活動の継続および更なる発展にご尽力いただくとともに、各々特徴ある地域づくりが進んでいくことを、選定委員会一同期待しています。

第 32 回「手づくり郷土賞」選定委員会

- | | | |
|-----|-------|---|
| 委員長 | 齋藤 潮 | 東京工業大学環境・社会理工学院 教授 |
| | 荻原 礼子 | 結 まちづくり計画室 代表・まちづくりプランナー |
| | 鈴木 伸治 | 横浜市立大学国際総合科学部 教授 |
| | 関 幸子 | 株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役 |
| | 田中 里沙 | 事業構想大学院大学 学長 |
| | 平野 龍平 | 富士急行株式会社 社長室アドバイザー
／一般財団法人コレゾ財団 代理理事 |
| | 由木 文彦 | 国土交通省総合政策局長 |

選定委員講評

齋藤 潮 委員長

19 の「手づくり郷土賞」受賞団体に敬意と祝意を表します。さて、わたくしはここに、今年度のグランプリとベストプレゼン賞の受賞理由を簡単に述べたく存じます。

グランプリは、「万代中央ふ頭」（大賞部門）と「かのがわ風のテラス」（一般部門）に決定しました。舞台はそれぞれ港湾と河川ですが、人々の足が遠のいていた水辺を、市民生活の活力に繋がる場へと転換した点で奇しくも共通しています。戦後、効率性重視の施策によって失われ始めた、都市の憩いの場としての水辺。その復権を模索したこれらの活動は、独創的かつ現代的な手法を組み合わせ、実績をあげ、将来性を感じさせました。活動の詳細は応募書類だけではわかりにくいものです。それを補うような明快なプレゼンテーションも含め、選考委員の支持を集めました。

ベストプレゼン賞は来場者の投票で決定されるため、受賞理由は推測のほかありません。わたくしのみるところ、今年度は発表者の熱意だけでなく誠実さが聴衆の心を捉えたようです。受賞した「球磨川のほとりに咲くツクシイバラ」には、野生のバラに向けられた静かな愛情が滲み出ていました。僅差で次点となった「重信川河口域の湿地環境保全」の高校生のプレゼンテーションは、外連味の無い楚々とした印象で好ましく思えました。

荻原 礼子 委員

今年の賞の選定はドラマを感じる取り組みが多く、感動や元気をいただくことができました。きっとグランプリに参加された方々も同じように感じられたと思います。

荒れた河川敷を野バラの自生地、汚い川を蘇らせて地域の憩いの空間に、人気のない港湾や川岸を賑わいのまちに等々、困難を乗り越える中で人の輪が広がり、まちが変わっていくドラマがいくつもありました。

地域の埋もれた資源に新たな価値を見出し、夢を描いて汗を流す取り組みは、その過程で人の輪と独創的なアイデアを育みます。

地方創生が叫ばれる今、そのコミュニティによる創造のエネルギーこそが、地域課題を乗り越えて未来を拓く一番大事な力ではないでしょうか。

うれしいことにこの数年、若い世代の歴史的建物の再利用や屋外施設の利活用によるマルシェなどが大変盛んになってきました。今年は、この賞でもそれが目立ちました。

今、若い世代のドラマの舞台は、ふるさとのまちなのだと思います。日本も、いよいよ楽しくなってきたそうです。

鈴木 伸治 委員

手づくり郷土賞を受賞された団体や地域、関係者の皆様、心よりお喜び申し上げます。

今回のプレゼンテーションの中では、行政からの補助金に頼らずに、自立して活動を長年に渡って継続されている団体、さまざまな人や団体を巻き込みながら活躍されている団体の活動に注目しました。いずれの活動も、周囲の団体や個人からのサポート、他の団体や人たちが参加したいと思えるようなプラットフォームを提供する必要があります。そのためには自分たちの活動や思いを発信し、多くの人の共感を得ていくことが重要であると、プレゼンテーションを拝見し、改めて思いました。

今年の受賞団体も、非常に多様で、オリジナリティのある活動を展開されており、こうした機会に各地の団体が一堂に会して互いの活動を知り、またそれぞれの活動を発展させていくことが、重要であると改めて感じました。

そして受賞された団体は、さらに地域のまちづくりのモデルとして活躍され、手づくり郷土賞がプラットフォームとなり、全国にまちづくりの輪がひろがっていくことを期待しています。

関 幸子 委員

手づくり郷土賞を受賞されました地域、団体の方々に心よりお喜び申し上げます。

今回は書類審査そして具体的なプレゼンテーションを聞きながら、暮らしている生活者の目線に立って、地域の課題を解決していく取り組みや地域資源を生かした取り組みなど、個性的で魅力的なプロジェクトが多かったと感じました。

グランプリに輝いた「かのがわ風のテラス」では、商店街会長が中心となり協議会を結成し、狩野川の親水公園を活用してのオープンカフェやお祭り等を開催し、水辺空間と商店街の連動を図っていました。徳島市の「万代中央ふ頭」の取り組みも、倉庫街を音楽が聞こえる賑わい空間に変えた取り組みで、多くの審査員の評価を得たところです。

他の事業も、いずれも何十年にもわたり継続してきた事業が多く、自治会、NPO、学校、地域団体が一緒に連携したからこそ実現できた取り組みでした。人口が減少する中で、地域の暮らしを守るには、一人ひとりができることを毎日やっていくことが大切です。

手づくり郷土賞は、こうした地域の小さい取り組みに光を当て表彰することで、活動への励みとなり、郷土に誇りを感じていただけるきっかけになれば幸いです。最後に、受賞されました地域のますますのご活躍を祈念いたします。

平野 龍平 委員

受賞団体の皆さん、おめでとうございます。

この賞は、受賞団体の活動を全国に広く紹介することにより、個性あふれ活力ある郷土づくりに資する目的があり、規定に則って選定されていますが、受賞者の皆さんのプレゼンを拝見・拝聴していると、言うだけで何もしない人が多いこの現代社会で、地域を少しでも良くしようと、自ら考え、行動を起こし、ごく当たり前に活動を続けておられる方々全てが尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、と痛感し、頭が下がる思いです。

地域振興・活性化に成功しておられる事例を拝見すると、活動の当事者の皆さんが楽しみながら取り組んでおられることが、周囲を巻き込み、活動を継続、拡大する大きな原動力になっていると実感します。

地域の活性化には、人的交流が必要不可欠で、魅力的な人財こそが最大の地域資源です。

今回も、楽しいプレゼンには、会場の皆さんも聞き入っておられましたし、その楽しそうな活動現場に会いに行きたくなる魅力的な方々にたくさん出会えたことに感謝です。

参加された全ての団体の皆さんの益々のご活躍と活動のご発展を祈念申し上げます。

「多摩川エコミュージアムプランの推進」 人をつなげる森と川～二ヶ領せせらぎ館をまちの広場に～



神奈川県 川崎市
特定非営利活動法人 多摩川エコミュージアム / 川崎市

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

多摩川は、山梨県笠取山(標高1,953m)に水源を発し、東京湾に注ぐ全長138km、流域面積1,240km²の山梨・東京・神奈川県を流れる一級河川です。首都圏を流れる河川として都市空間の一部を形成しており、上流部ではその流れと豊かな自然は人々に憩いと安らぎを与え、下流部では、広々とした河川敷は散歩やスポーツ・レクリエーション等に幅広く利用されるなど首都圏を代表する河川として

て広く愛されています。

二ヶ領せせらぎ館は、国土交通省が管理する二ヶ領宿河原堰の管理棟の一部を川崎市の「多摩川エコミュージアムプラン」の運営拠点・情報発信センターとして、川崎市と多摩川エコミュージアムが協働で管理運営する施設で、魚類、野鳥類、植物類が観察できます。



二ヶ領宿河原堰



二ヶ領せせらぎ館



二ヶ領せせらぎ館内

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

特定非営利活動法人 多摩川エコミュージアムは、多摩川の水環境・緑・歴史・文化等の資源を活用し、市民・企業・行政それぞれが持つ機能を発揮しながら地域でまちづくりを目指す「多摩川エコミュージアムプラン」を推進する市民団体として、主体的・自発的な事業展開を図っています。

二ヶ領せせらぎ館を拠点に、多摩川の水環境学習をはじめとして、誰もが楽しく学び、活動するための

地域づくりを進めるため、住民、学校、企業とも連携した毎月の清掃活動、地域に定着した様々なイベントや事業の企画・運営、他団体との協力事業等に取り組んでいます。



地域住民で毎月のクリーンアップ活動



エコ★カップいかだ下り



秋の収穫祭&ミニコンサート

3 活動の成果や波及効果等

多摩川エコミュージアムの活動により、多摩川や二ヶ領用水の環境・歴史学習のため小学校30校がせせらぎ館に来館し、地域住民や企業、大学と連携した事業など、多摩川の魅力を伝えるだけでなく、地域のシンボルとして近隣に広く認識されています。

また、近年、河川防災をテーマに取り上げた多摩川シンポジウムでは、地域住民の防災に対する興味関心度が向上すると共に、学校や企業、他市他県からも実技指導を求められています。



二ヶ領用水の環境学習



多摩川シンポジウム

4 前回受賞時からの活動の発展内容

前回受賞(平成18年)時より市外さらには海外との国際交流事業まで活動規模が拡大しています。

毎月の河川敷の清掃は、シティグループ、地元企業や大学の参加も増加中。防災イベントなど新たな事業にも積極的に取り組んでいます。

また、地域住民との共催イベントを通し、5つの大学との同時活動連携もしています。

所在地

神奈川県 川崎市

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 多摩川エコミュージアム
(044-900-8386)
<http://www.seseragikan.com/index.html>

対象となる社会資本

二ヶ領せせらぎ館を中心とした多摩川
※管理者：国土交通省関東地方整備局、川崎市



喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人 多摩川エコミュージアム
代表理事 松井 隆一

コメント

多摩川の魅力を体験、伝える活動を、当初から18年、NPOになって15年、自分たちのできることを、他団体との協働・連携によって広げ深めてきました。大賞を受賞して、ますますの活躍が期待されていることに自覚を持って、臨みます。

活動内容

- ・二ヶ領せせらぎ館の管理運営
- ・毎月のクリーンアップ活動
- ・多摩川を活用したイベントの開催
- ・地域大学間との連携活動
- ・多摩川流域の市町村との連携活動 など

活動の経緯

- 平成11年 二ヶ領せせらぎ館開館
- 平成14年 NPO法人として設立
- 平成18年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞
- 平成20年 毎月のクリーンアップ活動開始
エコ★カップいかだ下り開催開始
- 平成27年 ジャカルタとの国際交流開始

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

万代中央ふ頭（音楽が紡ぐ港の魅力発信）

徳島県 徳島市
特定非営利活動法人アクア・チッタ / 徳島県

1 社会資本の概要

万代中央ふ頭は、徳島市中心部に近く新町川下流の優れた水辺空間に位置し、東西約500メートルにわたる大規模な倉庫群が立地しています。

約50年ほど前には港湾物流の中心としてにぎわっていましたが、水深が浅く、大型化する船舶を受入れられなくなり、かつての活気を感じさせる倉庫群だけが取り残されていました。



景観に優れた水辺空間を有する万代中央ふ頭

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

徳島市中心部の近くにもかかわらず、人気も少なく近寄りたがたい雰囲気となってしまったこの地域を、水辺の魅力を活かし、ここに人が集い、交流が生まれる「港にぎわい空間」に再生したいとの思いから、新しい水辺のまちづくりへの取組を開始しました。

最初は、何をすればよいのかわかりませんでした。人気の少ないさびれたところでしたので、まずは清掃活動からスタートしました。そして市民の関心を喚起し認知度を向上させるため、水辺を活かしたイベントや水産市「アクア・チッタフェスタ」を開催するとともに、地元の有志たちで構成された万代中央ふ頭にぎわいづくり協議会の「万代中ふ頭に

ぎわいづくり構想」の策定にも参画しました。その後、規制緩和により倉庫を活用したイベントが開催できるようになり、倉庫全体を使った展覧会や手づくり作品を集めたハンドメイドマーケットなど様々なイベントを行い、「新しい水辺のまち」として多くの方々に認知されるようになっていきます。

活動では、メンバーが持つ専門的知識を活かしながら、イベントチラシやSNSデザインの作成、効果的な広報などにより、多くの人々の注目を集めるように努めています。

また、若い世代のメンバーによる青年部も発足し、幅広い世代による活動を行っています。



活動当初から継続して行っている清掃活動



年に1度の大イベント「アクア・チッタフェスタ」



「万代中央ふ頭にぎわいづくり構想」策定のワークショップ

3 活動の成果や波及効果等

活動当初は、港湾区域の規制により倉庫を物流用途以外には使用できませんでしたが、地道な取組を続けた結果、徳島県による既存倉庫群の利活用を図る実証実験を経て、倉庫を店舗やオフィスなどに利用できるよう規制が緩和されました。

現在では、多くの倉庫が様々な用途に転換され、人気のなかった空間が「港にぎわい空間」へ変わってきています。

4 前回受賞時からの活動の発展内容

年に一度のお祭り「アクア・チッタフェスタ」では、今や名物となった、ライブ音楽と打ち上げ花火を同期した「音楽花火」も実施するようになり、平成26年度からは開催日数も増やしています。「音楽花火」は、ライブ演奏をFM放送局から県内一円に放送し、フェスタ会場の万代中央ふ頭だけでなく、広範囲で多くの方々が楽しむことができるようになっています。

平成28年度には、万代中央ふ頭のイメージソング「ミズイロ」を制作しました。現在は、「ミズイロ」を携えて、全国のみなとまちを音楽で紡ぐPR活動を続けています。



アクア・チッタフェスタの名物「音楽花火」イメージソング「ミズイロ」に乗せて

喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人アクア・チッタ
事務局長 岡部 斗夢

コメント

受賞の喜びをメンバーと共にかみしめています。「手づくり郷土賞グランプリ2017」会場での、みなさんの熱い想いに触れた中でいただけた「グランプリ」の名に恥じないよう、更に頑張っ、メンバーみなで、これからも楽しく活動の場を広げていきたいと思っています。

活動内容

- ・清掃活動
- ・「アクア・チッタフェスタ」の開催
- ・倉庫を活用した各種イベント
- ・イメージソングによるPR活動 など

活動の経緯

- 平成17年 NPO法人設立
- 平成23年 徳島県による「港にぎわい空間創出実証実験」開始
- 平成25年 第二倉庫 アクア・チッタ開設
- 平成28年 倉庫業以外への規制緩和開始
- 平成28年 イメージソング「ミズイロ」制作

所在地

徳島県 徳島市 万代町

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人アクア・チッタ
(088-679-8001)
HP: <http://aquacitta.com/>

対象となる社会資本

徳島小松島港万代中央地区（万代中央ふ頭）
※管理者：徳島県



海と街とのやさしい出会い ～やすらぎの空間を求めて～ “かんたん” みなとまちづくり



手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

大分港は、九州の東部、大分県の中央に位置し、古くは16世紀中頃、ポルトガルや明との交易が盛んに行われていました。明治末期からは、近代港湾としての整備が進み、臨海工業地帯が形成されました。今回の舞台である大分港西大分地区は、大分港発祥の地であり、神戸とを結ぶフェリー基地として



癒やしのスポットとして再生した「大分港西大分地区」

利用されています。

また、フェリーターミナルの地区内移転などをきっかけに、別府湾を眺めるなど海を感じる事ができる特性を活かしたウォーターフロント開発計画が進められ、官民一体となったみなとまちづくりが展開されています。



平成4年から「別府湾岸官民交流会議」を開催

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成6年以前の西大分地区は、不法投棄やポイ捨てのゴミなどによって地域住民が寄り付きにくい場所になっていました。しかし、県のウォーターフロント開発計画をきっかけとして、この港を、地域住民が愛着を持ち、憩い、賑わう空間にしようとして当会を設立し、みなと整備やその活用方法への提言・研究、また、イベントの企画・運営等の活動を行っています。その提言・研究は、現代美術による



平成26年設置 旧フェリーターミナル施設を利用したパブリックアート「マッテルモン」

パブリックアートの設置や、ウッドデッキと芝生の公園整備、更には、取り壊し計画のあった古い建物の再利用など多岐にわたります。

また、“みなと”、“食”、“植栽”などをテーマとした手づくりイベントを開催するとともに、定期的な清掃や草刈り、植栽づくりなど、この場所を、多くの方々が集う魅力的なエリアにするための様々な取り組みを進めています。



イベント時の別府湾クルーズ

3 活動の成果や波及効果等

継続的に開催している各種イベントの年間総来場者数が3万人を超え、このエリアの認知度が年々高まるとともに、以前は周辺に4店舗しかなかった商業施設等が、今では29店舗に増加するなど、その効果は周辺地域にも広がっています。

また、当会が開催したイベントを契機に、地域住民が自主的にヨガやノルディックウォーキングの教室を始めたり、定期的に植栽の手入れを行うグループができたり等、地域コミュニティの活性化にも繋がっています。



古くなった倉庫を商業施設等に再利用



地域住民に親しまれているノルディックウォーキング

4 前回受賞時からの活動の発展内容

平成23年度からは、近隣企業19社と連携して「お花の里親制度」を開始し、街灯に花を飾るなど更なる美化活動に取り組んでいます。

また、地元の高中生や大学生、外国人留学生等と連携して「高校生レストラン」や「ワールドレストラン」を実施し、年齢や国籍を超えた交流の輪を広げています。

所在地
大分県 大分市 生石5丁目

活動主体及び連絡先
NPO 法人 大分ウォーターフロント研究会
(097-538-9691)
※功労者：早瀬 康信

対象となる社会資本
港湾環境整備施設（大分港西大分地区）
※管理者：大分県



喜びの声



受賞者

NPO 法人 大分ウォーターフロント研究会
会長 菊口 邦弘

コメント

私たちは、「かんたん港園」来場者の「ここステキですね」の一言に感動し、地元実行委員・ボランティアの皆さんと共に達成感をおぼえ、素直に喜べるまちづくり活動が今回の受賞に繋がりました。多くの関係者の皆さまに感謝しています。

活動内容

- ・国内外のウォーターフロントを視察、研究し、大分港西大分地区を中心に別府湾岸の「みなとまちづくり」を考え大分県に提言
- ・毎年別府湾岸に位置する4市1町で「別府湾岸官民交流会議」を開催し別府湾岸の振興目標を立て実現にむけて努力

活動の経緯

- 平成2年 団体設立
- 平成3～8年 様々なウォーターフロント提言
- 平成16～18年 倉庫再利用提言・社会実験
- 平成19年 みなとオアシス認定
- 平成23年 倉庫再利用と港園整備の完成
- 平成29年 大分きれい100選を受賞

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

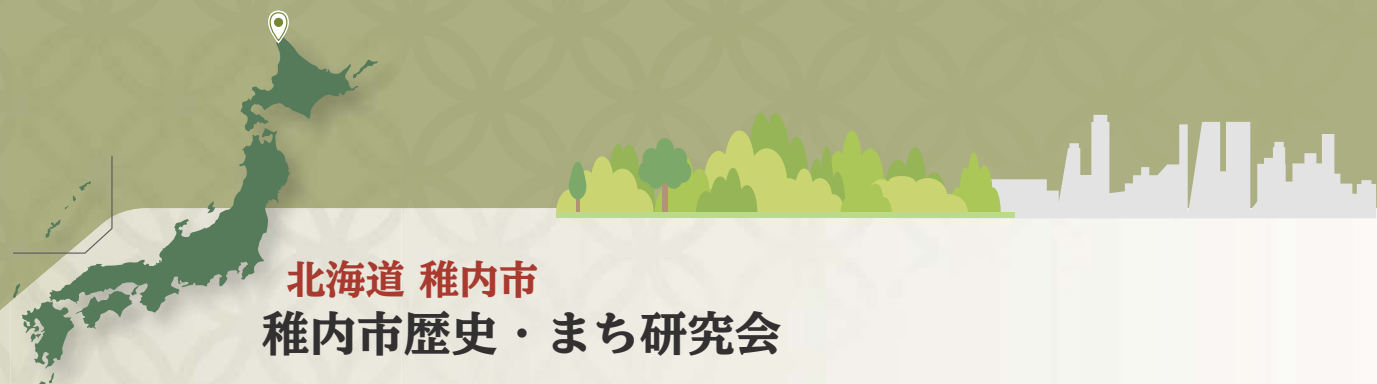
講評

大賞部門

一般部門

資料編

古き良きものを守る ～国境の街 稚内の歴史的建造物の保存とまちづくり～



北海道 稚内市
稚内市歴史・まち研究会

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講
評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

稚内は宗谷海峡を挟んでロシアと国境を接していることから、江戸時代以降、今日まで警備の要衝であることと同時に、樺太（サハリン）との交流・交易の拠点として位置付けられてきました。そのため江戸時代に国境警備のために駐屯した津軽藩や会津藩士の墓や史跡、戦時中に建造された軍事施設や、

探検家間宮林蔵の渡樺の地、稚内港北防波堤ドームのような樺太との人・モノの交流のための建造物や史跡が宗谷湾岸の国道40号から238号沿線に点在しています。現存するこれらの建造物や史跡を探访することにより、それぞれの時代の稚内の役割や歴史を体感することができます。



歴史的建造物群の一つ旧海軍大湊通信隊幕別送信所



世界的にも珍しいデザインの稚内港北防波堤ドーム

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

樺太との交易で栄えた稚内の栄華を伝える建造物が、次々と解体されていくことに危機感を持った有志が、「古き良きものを守る」という意識のもと、現存する歴史的建造物を保存し、この街の歴史文化の広報活動等を行い、活力ある地域づくりを目的に設立されました。

歴史的建造物の保存活動のほか、自分たちが独自に調査・研究を進めることで講演会・見学会・市民講座等の内容を充実させ、市民に地域の歴史を知っ

て興味を持ち、郷土愛を育んでもらえるような活動を行っています。

気軽に参加できるイベントも開催し、子どもから大人まで参加してくれています。

また、調査・研究結果を基にしたガイドブックには載らないような裏話を含めた独自のストーリーが財産となって、各施設のガイドとしての要望も徐々に高まっています。



たくさんの方が講座に参加しています



建造物周辺に桜を植樹



平和を祈念して灯籠を点灯

3 活動の成果や波及効果等

当会が保存活動を行うことによって、解体を免れた歴史的建造物が市内に数力所あります。修復活動にも携わり、その後一般公開され、多くの観光客が訪れるスポットになり、歴史を後生につないでいます。

建造物を修復する過程では、現代の建物ではあまり使われなくなった伝統的な職人の技をベテラン技術者から若手技術者に伝えられる場面も多々あり、技術の継承と技術者の育成にもつながっています。

修復中



ボランティアの技術者が技術を継承中

修復後



伝統の技「菱葺き」屋根修復完成です

所在地

北海道稚内市末広5丁目5番6号

活動主体及び連絡先

稚内市歴史・まち研究会
(0162-33-2220 株式会社 富田組内)

対象となる社会資本

宗谷湾沿岸歴史的建造物群（稚内港北防波堤ドームほか）
※管理者：北海道開発局稚内開発建設部・稚内市

喜びの声



受賞者

稚内市歴史・まち研究会
会長 富田 伸司

コメント

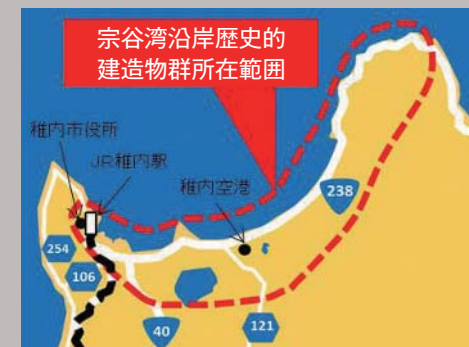
宗谷海峡（ラ・ペルーズ海峡）を挟んでロシアと国境を接している稚内には、当時をしのぶ建造物や史跡が多数現存しています。このたびは、当会の地道な活動を評価いただき大変光栄に思っております。今後は、調査教育に根差したこれまでの保存活動に加え、観光資源としての魅力を発揮できるよう、活動を継続していきたいと思っております。

活動内容

歴史的建造物の調査、研究、保存活動 など

活動の経緯

平成18年度 設立（平成17年活動開始）
平成20年 みどり香るまちづくり企画
コンテスト受賞（環境省）
平成22年 プロジェクト未来遺産受賞
（日本ユネスコ協会連盟）



手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講
評

大賞部門

一般部門

資料編

「骨寺村荘園遺跡」等の保全と地域の活性化を目指す活動



岩手県 一関市
本寺地区地域づくり推進協議会 / 岩手県、一関市

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

本寺地区は、中世の荘園絵図に描かれた堂社や祠などが当時のままに今に伝わっています。周囲の山々、曲がりくねった水路や不揃いな形の水田、イグネと呼ばれる屋敷林に守られて点在する家々等、地形や環境、景観が現在も良好に保存されているため、絵図から特定できる堂社や岩屋などの9区域が国史跡「骨寺村荘園遺跡」として指定され、その一帯は国の重要文化的景観「一関本寺の農村景観」

に選定されています。

また、地区内を横断する国道342号は、温泉や観光ルートとして市民に親しまれており、遺跡内を流れる一級河川本寺川は、昭和50年代の整備以降洪水の発生も無く、両社会資本ともに本寺地区の景観保全や生活基盤、観光交流を支える重要な役割を果たしています。



慈恵塚から眺める「骨寺村荘園遺跡」



昔ながらの小区画水田



水田にひっそりと佇む中世絵図にも描かれている「若神子社」

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平泉の文化遺産の世界登録への動きが始まり、関連資産として「骨寺村荘園遺跡」の世界遺産拡張登録を視野に入れた地域づくりを模索し、協議会を発足しました。生産性や効率性を重視する圃場整備ではなく、豊かな農村景観を保全する農地整備を実施しており、中世より連綿と続く農村景観を良好な形で後世へ継承することが責務・使命であるという強い思いから、地域住民が一体となり景観保全活動等に取り組んでいます。良好な農村景観を保全するた

め、県道や河川堤防の草刈作業を行い、その受託費を更なる景観保全の活動費に充てるなど、将来までの活動の継続を見据えた仕組みづくりも行っています。また、水田農業の継承が景観保全に繋がることから、お田植え・稲刈り体験交流会や収穫祭等の開催、骨寺村荘園米オーナーの募集により、水田農業だけでなく「骨寺村荘園遺跡」の歴史や伝統も全国へと発信しています。



春と秋に行われる土水路整備作業



老若男女問わず参加し交流を深めた稲刈り体験交流会



早乙女姿で手植えを体験するお田植え体験交流会

3 活動の成果や波及効果等

お田植え・稲刈り体験交流会には約400名、土水路整備作業には180名、中尊寺米納めには100名が地区内外から毎年参加しています。このような行事の開催や景観保全活動により、骨寺村荘園遺跡の歴史的経緯や伝統を保全し、継承するとともに、景観保全意識の醸成と都市農村交流による地域の活性化が図られています。最近では本寺地区の水田耕作放棄地も減少しており、良好な農村景観の保全が着実に進められています。



吹雪の中、本寺で収穫した農産物を、中尊寺まで収める米納め



骨寺村荘園地区の特産物「南部一郎かぼちゃ」の生産や加工品の開発・製品化に取り組み、地域振興に寄与している



田植え体験後の昼食交流会



米オーナー募集チラシ

所在地

岩手県一関市巖美町本寺地区

活動主体及び連絡先

本寺地区地域づくり推進協議会
(0191-33-5022 事務局長 五十嵐 正一)

対象となる社会資本

国史跡「骨寺村荘園遺跡」及び国の重要文化的景観、国道342号、一級河川本寺川
※管理者：岩手県、一関市、個人

喜びの声



受賞者

本寺地区地域づくり推進協議会
会長 佐藤 勲 (写真：中央)

コメント

このたびの受賞は、私達にとりましてこのうえない喜びです。歴史的な経緯や伝統を守りつつインフラの保全管理を図り、地域活動を通して後世への継承を目指している中、今回選定されたことは、今後の活動に大きな励みとなることです。ふるさとの宝である農村景観の保全活動を軸に、更なる地域活性化に向かって取り組んで参りたいと思います。

活動内容

草刈や土水路整備等の景観保全活動、お田植え・稲刈り体験交流会等の企画・運営、特産物の開発・販売など。

活動の経緯

平成16年 「本寺地区地域づくり推進協議会」設立
平成20年 景観保全農地整備事業実施
平成27年 市や地権者らと小区画水田の管理協定を締結



手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

石巻南浜津波復興祈念公園における市民の伝承活動



宮城県 石巻市

がんばろう！石巻の会、公益社団法人みらいサポート石巻
特定非営利活動法人こころの森 / 宮城県、石巻市

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

平成 23 年 3 月 11 日に襲来した大津波により多くの営みが一瞬にして奪われた石巻南浜地区では、犠牲になられた尊い命への追悼と鎮魂、大震災の脅威や教訓の伝承ならびに復興の力強い発信を目的とし、国・県・市が連携し石巻南浜津波復興祈念公園の整備を進めています。

公園のコンセプトは、土地の履歴を重ねて表現す



石巻南浜津波復興祈念公園 イメージパース

るというもので、かつての南浜地区にあった、北上川河口部の砂浜や湿地、戦後急速に発展した市街地や住宅地、そして生活の記憶、震災、そしてこれからの未来という時間を重ねています。

復興祈念公園は平成 29 年 3 月に着工し、完成は平成 32 年度を目指しています。



復興祈念公園内にある市民活動拠点

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「がんばろう！石巻の会」「公益社団法人みらいサポート石巻」「特定非営利活動法人こころの森」の3団体は、東日本大震災の被災地である石巻市で、地域住民が中心となり自ら発足した団体で、震災直後から追悼行事や震災伝承活動、公園に植栽する苗木の育成等の活動を実施してきました。公園整備予定地内の市民活動拠点では、3団体が中心的な役割

を果たし、他の関係者との連携・協力のもと公園の基本理念に沿った活動・行事等を実施しています。

また、3団体は石巻市が事務局の「参加型維持管理運営」検討協議会の主要メンバーでもあり、公園完成後の活動や市民協働等も想定し、同協議会や地域の関係団体、行政等と意見交換を行いながら活動をしています。



【みらいサポート石巻】震災学習プログラム「語り部と歩く 3.11」



【がんばろう！石巻の会】を中心とした実行委員会開催の追悼行事



【こころの森】が育成した苗木を2300本植樹した第1回植樹祭

3 活動の成果や波及効果等

「がんばろう！石巻」看板には、これまで6万人以上の方が訪れており、多くの人々を励まし続けています。毎年3月11日には、追悼行事「東日本大震災追悼3.11のつどい」を開催しています。南浜つなぐ館のICTを活用した被災の実情の可視化やVR等の展示は、メディア・専門家等からも高い関心が寄せられています。

3団体が各々の得意分野を生かして連携することにより、将来の復興祈念公園運営に不可欠な市民活動を継続する素地を育てています。



「南浜つなぐ館」震災伝承に関する展示



地元中学生との二代目看板の制作



市民活動3団体による視察受入

所在地
宮城県石巻市 石巻南浜津波復興祈念公園

活動主体及び連絡先
がんばろう！石巻の会
公益社団法人みらいサポート石巻
特定非営利活動法人こころの森
(連絡先 みらいサポート石巻 0225-98-3691)

対象となる社会資本
石巻南浜津波復興祈念公園
※管理者：宮城県、石巻市、東北国営公園事務所



喜びの声



受賞者

公益社団法人みらいサポート石巻
専務理事 中川 政治 (写真：右)

コメント

「がんばろう！石巻」看板からスタートし、多くの連携を生んできた伝承活動を手づくり郷土賞に選定いただいたこと、感謝申し上げます。今後整備される石巻南浜津波復興祈念公園と共に、全国の方々へ地域の思いを届けられるよう、今後も努力を重ねてまいります。

活動内容

追悼行事、震災伝承活動、杜づくりの活動 など

活動の経緯

- 平成 23 年 被災市民の有志で3団体の各々の活動を開始
- 平成 28 年 復興祈念公園「参加型維持管理運営」検討協議会参加、市民活動拠点での活動を開始
- 平成 29 年 第1回植樹祭開催

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

渡良瀬遊水地の未来に向けて



茨城県 古河市、栃木県 栃木市・小山市・野木町、
群馬県 板倉町、埼玉県 加須市
わたらせ未来基金

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県と接する位置にあり、渡良瀬川・利根川流域の水害や濁水から地域住民の安全と安心を守るための治水・利水施設として、その役割を果たしています。明治時代は農村地帯だった土地で、足尾銅山問題や治水計画のため土地の強制収用の歴史がありました。しかし長年の時を経て、地域住民の皆さんはじめ多くの方のご協力の下、調節池として整備され、

今では日本の原風景であるヨシ原を中心とした低層湿原の再生により様々な生き物の宝庫となり、関係する人々の努力により2012年にはラムサール条約登録地となりました。

また、広大な3次元空間の魅力あるフィールドとして、熱気球、トライアスロンや自転車などのスポーツをはじめ、自然観察や憩いの場として、年間約120万人が訪れています。



日本有数のヨシ原



水と緑にあふれた渡良瀬遊水地



ラムサール条約登録認定証授与
(ルーマニア・ブカレストにて)

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「渡良瀬遊水地を将来に渡って自然の宝庫として残すためには市民も積極的に係わる必要がある」との初代代表の理念のもと、「わたらせ未来プロジェクト」を策定し、賛同する市民で2001年に設立しました。渡良瀬湿地帯（遊水地）の自然を再生し、大型野鳥の生息・繁殖により自然と人間の共存をめざし、湿地環境保全として低層湿原に生育・生息する絶滅危惧種の保護や、野草や野鳥の観察など自然学習会、湿地のグリーンウェイブ活動、川でつなぐ

る上流足尾山地の緑化のための植樹と保育など多くのイベントを実施しております。

また、日本有数のヨシ原の保全のため、外来種除去、体験ヨシ刈り、土壌攪乱による湿地保全・再生、腐葉土づくりなどでヨシを有効利用したり、学校ピオトープによる環境教育を行う事により生物多様性への理解や自然環境保護を次世代につなげるよう、力を注いでいます。



地域学校と協したヨシ腐葉土づくり



湿地のグリーンウェイブ活動



学校ピオトープを設置し環境教育

3 活動の成果や波及効果等

過去16年にわたる活動で、湿地再生保全活動では市民のみならず、学校や企業、行政にも理解が広がり、渡良瀬遊水地第二調節池の環境学習フィールド3を中心に年5回の活動で毎回500～1000人の参加者にご協力いただいております。また、足尾との広域連携により、足尾のどんぐりを遊水地で苗にし、足尾に植樹する循環型緑化にも取り組み、過去の歴史を乗り越えた事業に発展しています。

近年ではコウノトリの飛来も確認されるなど着実に成果が現れており、渡良瀬遊水地を中心にした広域的な自然再生ネットワークが広がっています。



毎回多くの市民が参加する外来種除去等湿地再生保全活動



コウノトリの飛来



攪乱作業による湿地環境再生



コウノトリの飛来

所在地

茨城県 古河市、栃木県 栃木市・小山市・野木町、
群馬県 板倉町、埼玉県 加須市

活動主体及び連絡先

わたらせ未来基金 (0280-31-8913 内田)
<http://watarase-mirai.jimdo.com/>

対象となる社会資本

渡良瀬遊水地
※管理者：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所



喜びの声



受賞者

わたらせ未来基金
代表 青木 章彦
事務局 内田 孝男

コメント

受賞は、これまでの手づくりの証となりました。価値ある自然環境をさらに未来に向けて、コウノトリも棲める境界無い地域づくりとエコミュージアムを目指し、活動を強力に進めていきます。

活動内容

ヨシ原保全、足尾山地緑化、湿地の保全・再生、生物多様性の場づくり、環境学習・教育、ゴミ拾い活動 など

活動の経緯

平成13年 会の設立。わたらせ未来プロジェクト活動開始、ヨシ刈り、足尾植樹、学校ピオトープ等各種イベント開始
平成23年 湿地保全再生プロジェクト
平成24年 ラムサール条約登録証授与
平成26年 小山市との協働イベント開始参加者1000人を記録

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

100年の景観づくり 「枝垂れ桜の咲く里への回り道」



新潟県 糸魚川市
特定非営利活動法人 徳合ふるさとの会

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

新潟県糸魚川市にある徳合地域は、戦国時代の山城跡があり、豊かな自然、棚田、茅葺きの古民家といった日本の原風景が残る土地です。

この地域を通る県道仙納徳合線と市道仙納筒石線は全延長8kmにおよび、道路沿線にはシンボルと



枝垂れ桜と茅葺きの古民家

なる樹齢80年の枝垂れ桜をはじめ、近年植樹された桜によって桜街道が形成されています。平成19年には国土交通省の日本風景街道に登録され、「枝垂れ桜の咲く里への回り道」と呼ばれ愛されています。



棚田の風景

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

枝垂れ桜の咲く美しい景観を持つ地域づくりを進め、地元住民や小・中学生などとの協働により、これまでに300本以上の桜を植樹してきました。

今から20年程前、地域の将来を考え、「もっと明るく住みたくなる」「住民が誇りを持てる地域に」と、地域の仲間と道路のゴミ拾いや草刈り、樹木伐採などを始めたのが活動の原点です。苗木や桜の生育に必要な費用は、アルミ缶や鉄屑の回収

・売却や伐採木を薪として販売して充てています。桜の花が増えるに従い徐々に周囲からの理解を得られるようになり、今では集落をあげての活動になりました。



専用のアルミ缶回収ボックス



小学生との植樹



満開の枝垂れ桜

3 活動の成果や波及効果等

平成22年からは桜の開花時期に合わせてハイキングなど様々なイベントを開催し、地域の活性化につながる活動も行っています。徳合地域への来訪者は平成24年は1千人程度でしたが、平成29年には3千人以上と年々増加しています。「枝垂れ桜の里 徳合」の認知度が高まり、県内だけでなく長野県や関東方面などからも多くの観光客が訪れています。

平成27年からは、道の駅などと連携した地元特産品販売や地域観光周遊バスの運行をスタートしました。今後も地域や多様な団体との連携の枠を拡げ、活動を発展させていきます。



桜の季節のハイキングイベント



観光ツアー客へのガイド

所在地
新潟県糸魚川市徳合地先

活動主体及び連絡先
特定非営利活動法人 徳合ふるさとの会
(025-567-2241)

対象となる社会資本
国道8号、県道仙納徳合線、市道仙納筒石線
※管理者：高田河川国道事務所、新潟県、糸魚川市



喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人 徳合ふるさとの会
代表 塚越 秋三

コメント

今回の受賞は、これまでの長い年月をかけた地道な活動を支えていただいた皆様のご支援によるものと深く感謝しております。今後も、100年先を見据え、取り組みを続けていきたいと思っております。世界一の枝垂れ桜の里「徳合」へぜひお越しください。

活動内容

地域の景観整備（桜の植栽、支障木伐採）
PR活動（イベント開催、特産品販売）

活動の経緯

平成2年 活動開始（桜植栽、アルミ缶回収）
平成10年 地域の道路清掃など活動開始
平成13年 NPO法人徳合ふるさとの会設立
平成19年 日本風景街道に登録
平成22年～桜開花に合せた春のイベント開催

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

うしづま水辺の楽校 子供達のたくさんの笑顔、オクシズの魅カアップを目指す



静岡県 静岡市
うしづま水辺の楽校世話人会

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

「水辺の楽校（がっこう）」は、一級河川の安倍川の上流に位置し、河川管理をする中部地方整備局静岡河川事務所と静岡市が連携して平成 20 年に整備しました。約 1 万㎡の河川敷地には、「魚と泳ぐエリア」「魚のつかみ取りエリア」「水遊びエリア」などの、全 6 エリアがあり、水温は真夏でも 19℃前

後で、安倍川流域に生息するアユやアマゴなどが泳ぐなか、子供たちが一緒に遊びます。地元ボランティア団体である世話人会が主体的な運営にあたり、平成 21 年の開校以降毎年 2 万人程度が来校しているとともに、夏期以外でも様々な活動をおこなっています。



うしづま水辺の楽校（静岡県静岡市葵区牛妻地先）



水遊びエリア

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

活動のきっかけは、近年、自然の中で遊ぶことが少なくなった子供達に水遊びを通じて、安倍川の自然の豊かさや大切さ、また川の危険についても伝えることを目的としています。幼少の頃から安倍川で育った 14 名が中心となり、地域や行政とも連携して活動を実施しています。

しかし取組の課題として、水辺空間の環境を良好に保つことや子供たちやその家族が安全に楽しめるよう監視することは、大変な苦勞があります。世話人会では、創意・工夫して取り組んでおり、ボランティア 10 人以上で毎日監視員として常駐しています。子供達が川で安全に楽しく遊べるよう、河原の草刈りや駐車場の運営、ゴミの持ち帰りなどを利用者へ温かく呼びかけており、地域住民の川に対する愛着を高め、地域と共に次世代へ継承を目指しています。

現在では、安倍川内の水遊び場において、子供たちが安全に泳いだり、魚のつかみ取りや筏乗りを体験できる取組や、土手をつくり川に親しむ取組をしています。



子供が主役「水辺の楽校開校式」



水辺の楽校開校中の賑わい



環境学習講座を開設

3 活動の成果や波及効果等

うしづま水辺の楽校は、行政と学校が連携した自然環境教育（小学校課外活動）の代表事例として、県内外の地域へ活動が波及しています。

新たな取り組みとして、近年激減したホタルの養殖を行い、施設周辺の水辺に幼虫を放流するなど「牛妻地区のホタルの再生」に挑戦し、通年の施設活用および地域の新たな魅力づくりに取り組んでいます。静岡市の中山間地域「オクシズ（奥静岡地域）」の賑わいの核として、春の子供会の祭り御輿など各行事には、地域一帯となり活動を継続させています。



自然環境教育（小学校課外活動）



春の子供会の祭り御輿

所在地

静岡市葵区牛妻地先

活動主体及び連絡先

うしづま水辺の楽校世話人会
(054-294-0136)

対象となる社会資本

安倍川河川敷（うしづま水辺の楽校）
※管理者：国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所



喜びの声



受賞者

うしづま水辺の楽校世話人会
代表 川津 通久

コメント

この度は手づくり郷土賞一般部門に選定頂きありがとうございます。

これからも子供達に五感を感じ、体全体で自然を体験してもらえよう体験のサポートをしたいと考えております。

活動内容

水辺の楽校の運営・維持管理
環境教育、ホタルの再生など

活動の経緯

平成 20 年 世話人会 設立
うしづま水辺の楽校設置
(国土交通省、静岡市と連携)
平成 26 年 牛妻地区のホタルの再生
平成 27 年 静岡河川事務所河川協力団体に指定

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

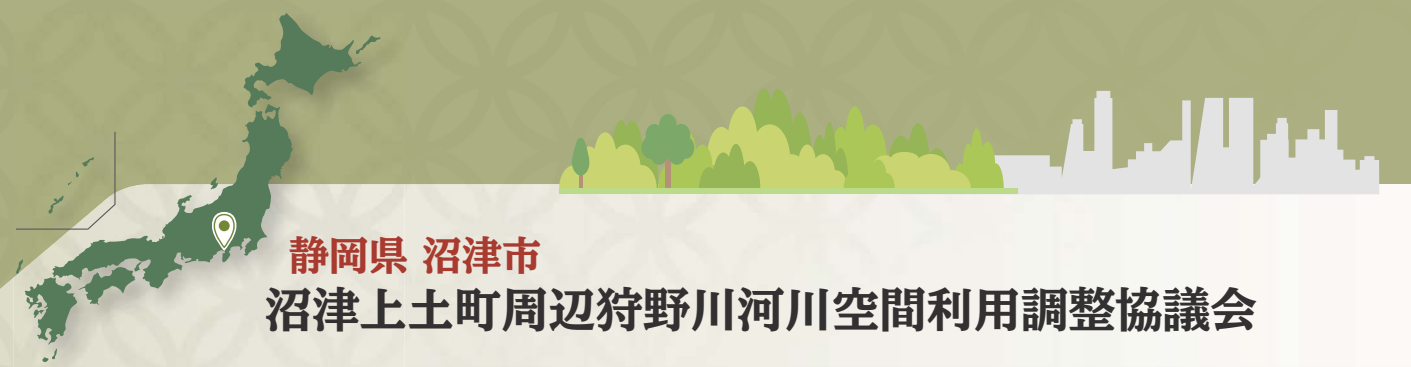
講評

大賞部門

一般部門

資料編

かのがわ風のテラス



1 社会資本の概要

「かのがわ風のテラス」は、沼津市市街地を流れる一級河川狩野川の右岸上土町周辺に位置しています。中心商店街の通行量減少等の課題をもつ沼津市において、平成23年の河川許可準則改正による規制緩和を機に、人が集う賑わいの場を提供しようと水辺空間の活用方法の検討が始まりました。平

成26年には地元商店街・市・河川管理者などからなる協議会を設立し、狩野川の水辺空間の活用を図る取り組みを進めた結果、年間3.8万人が四季折々の風を感じながらオープンカフェやバーベキュー、パフォーマーによる水辺のステージ、地元イベント等を楽しむことが出来る空間となりました。



かのがわ風のテラス (静岡県沼津市)



水辺のオープンカフェ

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

狩野川を生かして沼津のまちをもっと楽しく、魅力や活力向上につなげていこうと、地域住民と行政が一緒になって平成25年度に「沼津あげつち周辺狩野川活用研究会」を結成しました。初年度には狩野川右岸の階段堤を利用した水辺のオープンカフェや水辺のステージ、水辺のバーベキューなどを実験的に開催し、研究会の成果として、狩野川の魅力とその素晴らしいロケーションを活かしたお洒落な空間の演出が利用コンセプトとされ、愛称として「か

のがわ風のテラス」が提案されました。

平成26年には研究会での実験結果をふまえて「沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会」を設立しました。誰もが利用しやすい狩野川にするための取組を提案しながら、水辺空間のオープン利用を本格的にスタートしました。現在、「かのがわ風のテラス」を新たな憩いの場・賑わいの場として活用し、カーニバル大会の開催など市内外の団体とも連携しています。



水辺のステージ



水辺のバーベキュー



カーニバル大会

3 活動の成果や波及効果等

地域による水辺の空間の活用から始まった「かのがわ風のテラス」の活動は、最近では地元有志団体等がフェスタなどのイベントで利用するようになり、水辺の空間利用が地域住民・企業・行政ともに広く知られるようになりました。さらに波及効果として、水辺の空間の利用が認知されてきたことにより、フィルムコミッションの分野でも、ドラマやバラエティ番組等で数多く使われています。

今後も、日常的な河川空間の利用促進と河川に面した店舗などを増やしていくため、利用しやすい環境づくりを進め、まちなかと河川空間が一体となった取り組みを進めていきます。



THIS IS NUMAZU 沼津自慢フェスタ 2017



沼津夏まつり 花火大会

所在地
静岡県沼津市上土町

活動主体及び連絡先
沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会
(055-934-4748 事務局 沼津市役所商工振興課)

対象となる社会資本
かのがわ風のテラス
※管理者：沼津市



喜びの声



受賞者

沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会 委員 小松 浩二

コメント

この度は、かのがわ風のテラスの取り組みが評価され、大変うれしく思います。

沼津市の中心部を流れる狩野川は、まちの貴重な資源であり、人が集まる可能性のある魅力的な空間です。

これからもこの空間の価値を高めていき、日常的に人が集まるエリアにしていきたいです。

活動内容

かのがわ風のテラスの運営・維持管理、オープンカフェ、水辺のステージ、BBQ、地元イベント等の利用調整など

活動の経緯

- 平成25年 沼津あげつち周辺狩野川活用研究会を結成 様々な社会実験を通して検討
- 平成26年 沼津上土町周辺狩野川河川空間利用調整協議会設立
- 平成29年 イベント利用者向け備品の貸し出し開始

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

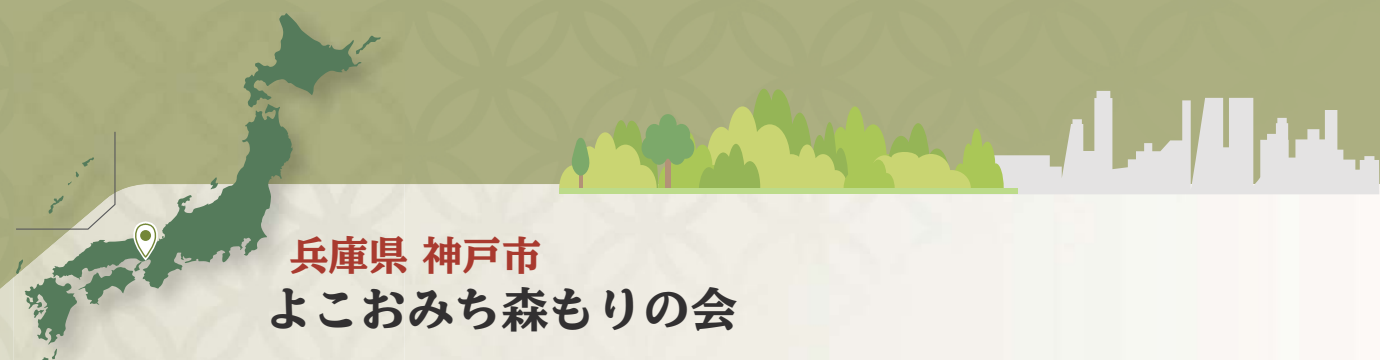
講評

大賞部門

一般部門

資料編

須磨ニュータウン周辺の森を整備し、癒しの森(場)づくり



兵庫県 神戸市
よこおみち森もりの会

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

須磨ニュータウンは広い山地を造成して造られ、その周辺には里山時代の森や緑地、段々畑や炭焼き窯跡等も数多く残っており、多種多様な植物、昆虫、野鳥等も数多く生息しています。

その一角に六甲山系横尾山があり、その中腹から



須磨ニュータウン（一部）の風景

は、瀬戸内の島々や遠くの山並み、明石海峡大橋、眼下に広がる大住宅地等の素晴らしい景色が一望できる場所となっており、六甲山のハイキングコースにも近く、日常の健康促進の場として活用されています。



六甲山系横尾山中腹から明石海峡方面の風景

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

六甲山系横尾山の中腹の法面はニュータウン造成時に整備されましたが、その後、放置されて法面は荒れ果て、住民の多くはその自然を身近に感じる事が困難となりました。

そこで、住民の一人が整備を始めたのをきっかけに、他の住民も整備に参加するようになり、第二のふるさとづくりという気持ちで活動に取り組みました。

長年放置された法面のクズ等を取り除き、兵庫県花である「ノジギク」を育成することにし、ノジギクを育成している団体より挿し穂をいただき、苗づくりを行いました。また、ノジギク以外は周辺に自生しているものを株分けしたり、種を撒いたり、挿し木等で育苗し、定植しました。その他に、ハンモックや間伐材を利用したベンチの整備、シイタケ栽培等、楽しみの場も生み出しました。



ノジギクの苗づくりの状況



ノジギクの管理状況



ハンモックで遊ぶ子供達

3 活動の成果や波及効果等

整備により、地元の方々の朝夕の散歩コースとなり、遠方からも日常的に多くの方々が訪れるようになりました。

雑草で生い茂っていた法面にノジギクを育成したことにより、平成25年には「こうべ花の名所」に選定され、毎年、花が咲く季節には新聞や地方情報誌に掲載されるようになりました。

また、活動地には蝶の食草となる草木が沢山あり、アゲハチョウが多く舞っています。新たに自生の草を増殖したことで、アサギマダラやジャコウアゲハも飛来するようになりました。



咲き誇るノジギク



活動地で見つけたジャコウアゲハの幼虫(左)と成虫(右)

所在地
兵庫県神戸市須磨区横尾及び友が丘

活動主体及び連絡先
よこおみち森もりの会
<http://nojigiku450.blog.fc2.com/>

対象となる社会資本
須磨ニュータウンの横尾地区
(神戸市都市計画における六甲山系妙法寺川流域防砂の施設)
※管理者：神戸市



喜びの声



受賞者

よこおみち森もりの会
代表 伊與田 安正

コメント

放置され荒れて近寄れなかったニュータウン周辺の森・緑地が、日々の整備作業の積み重ねによって、多くの地域住民の癒しの場として利用されるようになってきたことをご評価いただき有難く思っています。

これからも人と自然が共生するふるさと森づくりの活動を続けていきたいと考えています。

活動内容

荒れていた森・緑地を整備し、地域住民の癒しの場づくり など

活動の経緯

平成20年 一人が整備活動開始
平成21年 会の設立
ノジギクの栽培開始
竹林の整備開始
平成25年 ノジギク栽培地がこうべ花の名所に

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

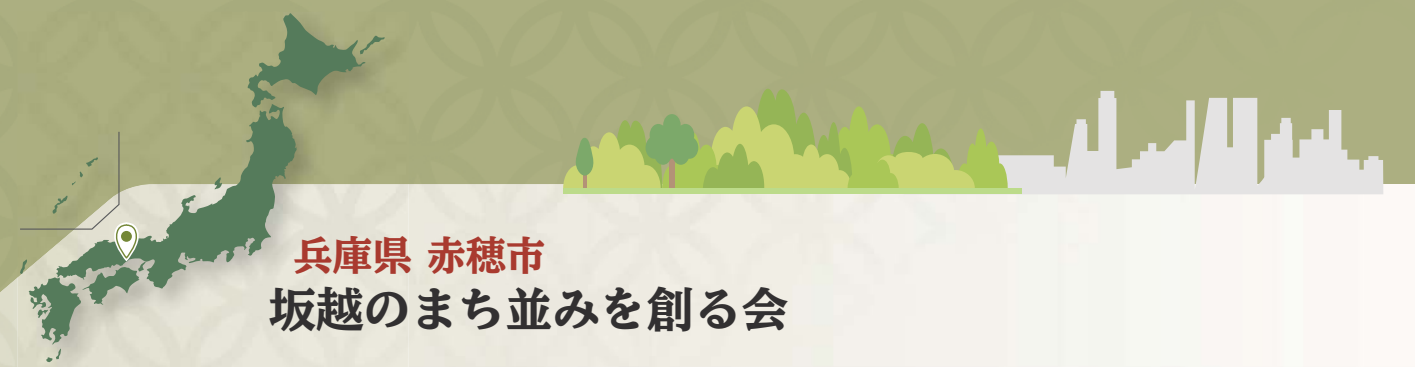
講評

大賞部門

一般部門

資料編

坂越浦の礎を築いた北前船廻船物語



兵庫県 赤穂市
坂越のまち並みを創る会

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講
評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

江戸時代、瀬戸内海有数の廻船業地だった赤穂市坂越。その坂越のまちは、波静かな坂越湾に浮かぶ原生林「生島」を取り囲む山々と、その山裾の海辺に連担する港まちの面影を伝える集落のたたずまいが調和して、絵のように美しい光景を保っています。昔は門が建ち、門番が朝夕開閉して町を守っていた



坂越の海岸とまち並みの風景

た「木戸門」跡から坂越港へと続く石畳の坂越大道には、当時の面影を色濃く残すまち並みが続きます。また、安全で潤いのある海岸の創出とまち並みとの調和をテーマに高潮や高波から町を守り、防災機能を十分確保しながら親水性に配慮した穏やかな傾斜の海岸に整備されています。



坂越港に通じる坂越大道沿いのまち並み

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

坂越地区の文化的・歴史的環境を最大限に生かしながら、伝統ある美しいまち並み景観を「守り、創り、育てる」ことを目指し、活動を行っています。まずは、市民の皆さんにも「北前船寄港地坂越浦」の馴染みが薄かったため、北前船の歴史を理解していただくことから、歴史講座の勉強会を実施しまし



北前船歴史講座の開催状況

た。幼稚園児や小学生を対象とした歴史の勉強会も定期的に実施しています。また、昔この地で行われていた「坂越の嫁入り」や「曳きとんど」等の伝統芸能文化を復活させることにより、お年寄りには懐かしさを、子供達には伝統を伝え、周辺のまちには魅力を発信しています。



坂越の伝統芸能文化の「坂越の嫁入り」の復活

3 活動の成果や波及効果等

坂越の活動拠点である「旧坂越浦会所」への観光客の入館者数は、平成6年は約3千人でしたが、平成28年は約2万人に増え、現在までの入館者数は20万人を突破しました。また、大阪や東京、近隣からの定住者も増え、古民家活用にも寄与しています。

全国各地で開催される「北前船寄港地フォーラム」に出席し、全国の「北前船寄港地」関係者と交流を深めています。



旧坂越浦会所への入館者20万人を突破した瞬間



古民家を活用してできたカフェ

所在地
兵庫県赤穂市坂越

活動主体及び連絡先
坂越のまち並みを創る会
<http://www.ako-sakoshi.org/>

対象となる社会資本
赤穂市道坂越線・坂越港ふるさと海岸整備事業
※管理者：赤穂市・兵庫県



喜びの声



受賞者

坂越のまち並みを創る会
代表 門田 守弘

コメント

坂越のまち並みを創る会全員で頂いた賞として大変光栄に思っています。これからも坂越にある、お宝をより磨き、より輝かす「住んでよかった」「来て観て良かった」と言わせる、身の丈に合ったまちづくりに挑み続けます。

活動内容

まち並み景観保存活動・清掃活動・ボランティアガイド・歴史講座など

活動の経緯

- 平成4年 会の発足
- まち並み景観保存活動
- 平成21年 ボランティアガイド開始
- 平成25年 花いっぱい運動
- 平成26年 伝統芸能文化の復活「坂越の嫁入り」など
- 平成27年 北前船寄港地坂越浦地域交流事業

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講
評

大賞部門

一般部門

資料編

住民自治で創る川西のまちづくり ~1200人を支え、100人が働き、170人が関わり、30万人が訪れる郷へ~

広島県 三次市
川西自治連合会

1 社会資本の概要

「川西郷の駅」「ほしはら山のがっこう」「ウォーターランド川西」「リバーサイドウォークロード」「川西診療所」「小規模多機能施設」「フラワーライン川西」。取組みを始めて10年、私たちの地域にはこんな施設や事業が生まれてきました。

「川西郷の駅」は、地域の生活拠点として新たに作り出したものです。「ほしはら山のがっこう」は、廃校になった小学校を活用して作ったもので、田舎

体験型交流の場となっています。「ウォーターランド川西」「リバーサイドウォークロード」は、川に親しむための施設で憩いの場になっています。「川西診療所」「小規模多機能施設」は、医療と介護の一体化を目指して設置しました。「フラワーライン川西」は事業名ですが、地区内を縦貫する国道沿いにサルビアのプランターを7kmに渡って並べているもので、秋の風物詩となりました。



川西郷の駅 ほしはら山のがっこう フラワーライン川西 ウォーターランド川西

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

川西地区は、人口5万4千人の広島県三次市の南部に位置する人口約1000人の小さな地域です。市の支所、農協、商店街、ガソリンスタンド等以前はあった施設は、どんどん撤退していきました。そのことに危機感を覚えた住民自治組織である「川西自治連合会」は、自ら故郷を守ろうと立ち上がります。

した。これには、課題に対し「だれが」「いつまでに」「どのようにする」かをまとめています。地域の夢を見える化することで、徐々に改善へと動き始めます。10年間の取組みで、上記の社会資本が出来上がってきました。

私たちの取組みは行政と一体となって、夢を絵に描き、文字にすることで形作られたのです。

まず、地域の願いをビジョンという形にまとめま



地域の現況図（資源マップ） キャッチコピーとキャラクター ビジョンに描いた将来のわが町

3 活動の成果や波及効果等

郷の駅がオープンして、5か月余り、来店者も10万人を超えました。ほしはら山のがっこうの利用者も毎年3千人に達しています。地域のイベントには、毎回300人余りが集っています。また、フラワーライン川西も定着して駅伝大会を中心に数多くの方が集まります。

サブタイトルに掲げた数値に近づいてきています。この成果が励みとなり、地域の一体感がさらに深まり、地域への誇りや暮らすことの生きがい、そして希望が生まれました。



運動会で集まる笑顔



山のがっこうの体験活動

郷の駅オープンを祝う地域住民

喜びの声



受賞者

川西自治連合会
会長 福永 要

コメント

選定されたこともとてもうれしいのですが、何よりも地域住民の新たな誇りや生きがいを創りだせたことが本当にうれしいです。

自治活動とは、行政と住民が一体となってその地域にふさわしい喜びを生み出していくことだと感じています。

この受賞を新たなスタートと考え、これからも努力したいと思います。

活動内容

里づくりビジョンの実現
生活拠点の形成・体験交流の促進
地域行事の活性化 など

活動の経緯

- 平成 16年 川西自治連合会の設立
- 平成 18年 第1次ビジョン策定
- 平成 20年 ほしはら山のがっこう NPO 法人化
- 平成 25年 (株)川西郷の駅設立
- 平成 28年 第2次ビジョン策定
- 平成 29年 郷の駅完成

所在地

広島県三次市三若町2651-1

活動主体及び連絡先

川西自治連合会 (0824-69-2526 川西コミュニティセンター内)

対象となる社会資本

川西郷の駅・ほしはら山のがっこう・ウォーターランド川西・フラワーライン川西・一般国道375号等
※管理者：(株)川西郷の駅・NPO法人ほしはら山のがっこう・広島県・三次市



手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

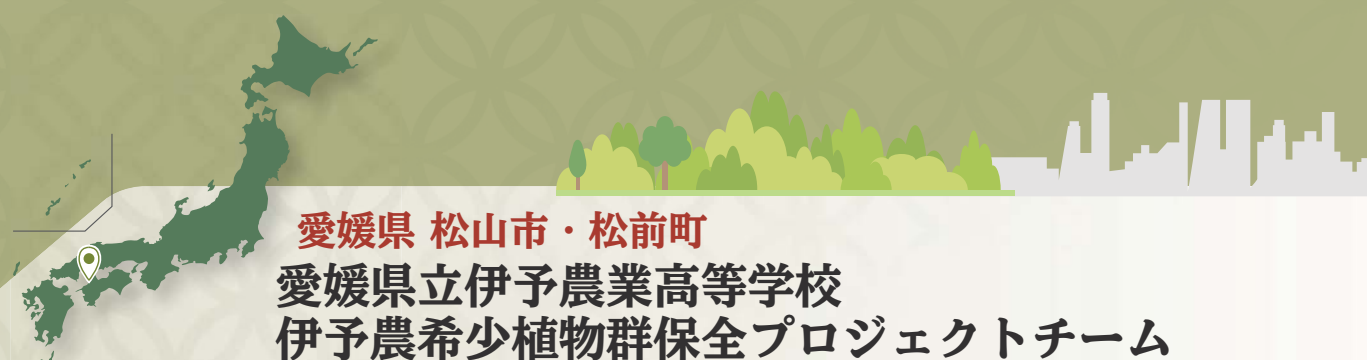
講評

大賞部門

一般部門

資料編

重信川河口域の湿地環境保全 ～高校生の取り組み～



愛媛県 松山市・松前町
愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

重信川河口域は、環境省より「シギ・チドリ類の重要渡来地域」「日本の重要湿地 500」に選定されるなど、四国最大の都市松山市近郊における優れた環境を有する地区です。

しかしながら、近年、ヨシ原や干潟の減少など環境悪化が進んできたことから、学識者、NPO 等、行政、大学生、高校生などで河口ワーキング部会を設立し、ヨシ原再生に関する意見のとりまとめ、住

民参画方法やモニタリング計画等について討議を重ねました。整備中も近隣の小学生や地域住民等が参加してヨシの植栽を行い完成しました。

完成後、定期的な河川清掃作業等を行い、現在は近隣小学生の環境学習の場として活用されるとともに、バードウォッチングの絶好の場として、多くの愛好家が訪れています。



重信川河口域 干潟・湿地全景



環境保全活動で野鳥の楽園となっている重信川河口域

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「貴重な干潟・湿地を守りたい」、「地域の誇れるシンボルを残したい」という思いから活動を始め、干潟・湿地の保全・再生に当たっては、初期の段階から学識者、NPO 等、行政、大学生とともに、ヨシ原再生事業のワークショップに高校生自らが参画し、計画づくりに携わるとともに、ヨシの移植作業にも参加しました。

ヨシ原再生事業の着手後、D-GPS を用いた河口

域の植生分布調査、干満による水際の変化調査、WEB カメラによるライブ配信、清掃活動を継続的に実施しています。ヨシ原の植生分布は増加傾向にあります。その反面オオキンケイギクやナヨクサフジ類などの外来植物の分布も確認され、その駆除にも取り組んでいます。

また、日本野鳥の会愛媛と連携して鳥類調査を行うなど、活動の幅が広がっています。



河口ヨシ原再生ワークショップへの参加



ヨシの移植作業に参加



小学生の環境学習（カニの観察会）

3 活動の成果や波及効果等

平成 23 年 3 月に河口ヨシ原再生事業が完成した後も、継続的に環境調査・保全活動を行っています。その成果として、ヨシ原再生の目標種の 1 つであるオオヨシキリの営巣も平成 26 年に確認されました。また、ヨシ原再生箇所において、愛媛県内で絶滅危惧種とされていた陸貝「オカミミガイ」の生息も確認できました。これらの活動の成果は地元紙にも取り上げられ、環境保全に関する意識高揚にも繋がり、次世代の人材育成も広がっています。



「オカミミガイ」の追跡調査



GPS によるヨシの植生分布調査



重信川シンポジウムでの説明



重信川フォーラムでの発表



定期的な清掃活動



小学生の環境学習（鳥類観察）

所在地

愛媛県松山市、伊予郡松前町

活動主体及び連絡先

愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
連絡先 (089-982-1225 顧問 玉井修二)

対象となる社会資本

重信川河口域
※管理者：国土交通省 松山河川国道事務所



喜びの声



受賞者

愛媛県立伊予農業高等学校
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
顧問 玉井修二

コメント

この度は栄誉ある賞をいただきメンバー共々、一層活動に力が入っています。重信川河口湿地には豊かな生態系があり、環境教育の学習の場として最適です。今後も 20 年、30 年と続くよう地道に活動を続けていきます。

活動内容

湿原の保全・再生・調査活動、清掃活動、環境学習・教育の場づくり など

活動の経緯

平成 16 年 会の設立。
干潟・湿原の保全・再生活動開始
平成 20 年 河口ワーキングに参画
平成 23 年 河口ヨシ原調査開始

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

水辺空間を活かしたまちづくり ～番田河原の利活用と地域の連携等～



福岡県 田川市
特定非営利活動法人 風治さつきの会 / 田川市

手づくり郷土賞

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

福岡県田川市伊田にある番田河原は、一級河川遠賀川水系彦山川中流部の田川市中心部市街に位置し、福岡県を代表する祭りである「風治八幡宮川渡し神幸祭」において、神輿や山笠が豪快に水しぶきを上げて川を渡る祭典のクライマックスを迎える場所です。



祭典のクライマックスを迎える番田河原
(一級河川遠賀川水系彦山川中流部)

近年では、親水性向上のため潜り橋や階段護岸等が整備され、堤防の整備では、地域の総鎮守である風治八幡宮の石の手すりのデザインを採用し、地元で産出される純白の石灰石「寒水石」などを混ぜ、風合いのある石壁のような外観に仕上げるなど、地域を代表する祭りのイメージを醸しています。



風治八幡宮の石の手すりのデザインを採用した堤防

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

田川市は、炭鉱で栄えた頃の人口11万人が現在では5万人を割り込み、市全体としての活気が失われており、川筋気質と呼ばれる荒い気性から地域には負のイメージが付きまとっており、地域のイメージアップが必要との思いから、当団体は「風治八幡宮川渡し神幸祭」を中心としたまちづくりによる地域活性化を目指しています。

神幸祭が更に活性化するように神幸祭を運営する各団体の調整・橋渡しの役割を担い、神幸祭全体を盛り上げる取組だけではなく、番田河原周辺の河

川環境の改善、地域住民、小学生への環境啓発活動、地域の伝統文化勉強会の実施及び河川・通学路の清掃活動により地域のイメージアップに活発に取り組んでいます。番田河原周辺の水質浄化活動では、彦山川上流域の荒廃森林の侵入竹を利用して、流域住民同士が連携を図りながら、伐採、炭焼して竹炭を製作し、番田河原に投入しています。環境啓発活動としては、地域の小学校4年生等100名が、小学校の空き教室を活用して鮭の卵を孵化させ100日間飼育した後、番田河原において放流しています。



神幸祭のクライマックスである川渡し神事



小学校の空き教室を活用して鮭を飼育

3 活動の成果や波及効果等

河川環境改善の活動については、当初15名程度で実施していたものが、現在では竹伐りから、炭焼き、竹炭の投入までに延べ140人の参加者があるなど、関心が高まっています。地域伝統文化勉強会は、参加者の約2割が地域外に居住している方であり活動が地域外にも広がっています。河川や通学路の清掃では、地域の小学生をはじめ地域にある福岡県立大学の方も参加するようになりました。

これらの活動を通じ、地域のイメージアップが図られてきており、神幸祭自体の集客としては、平成27年以降、それまで10万人程度だったものが、20万人以上もの来場者数になりました。



竹炭投入による水質向上や環境啓発活動



地域伝統文化勉強会



河川の清掃活動

喜びの声



受賞者

特定非営利活動法人 風治さつきの会
理事長 宇都宮 誠

コメント

歴史ある本賞を受賞することで、住民の目が地域の母なる川「彦山川」に向けられ、河川環境啓発意識の向上や地域の誇りを取り戻すきっかけとなり、神幸祭を中心とした地域活性化の起爆剤になることを期待しています。

活動内容

- ・流域住民連携による荒廃森林の里山整備
- ・地域住民と連携し河川環境啓発の実施
- ・地域伝統文化勉強会の実施
- ・児童と地域、NPOの連携による事業実施

活動の経緯

- 昭和50年 みこしをかつぐ会設立
- 平成26年 法人設立(12月24日)
- 平成29年 神幸祭に2度目の県知事来場

所在地

福岡県田川市伊田魚町・番田町・川端町

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 風治さつきの会
(0947-42-1135)

対象となる社会資本

遠賀川水系彦山川(番田河原)
※管理者:国土交通省
九州地方整備局 遠賀川河川事務所



手づくり郷土賞

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

球磨川のほとりに咲くツクシイバラ ～100年後の人々に届けたい～



熊本県 錦町
球磨川ツクシイバラの会 / 錦町

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

球磨川のほとりに5月中旬から6月中旬にかけて花を咲かせる「ツクシイバラ」は、九州を意味するつくし（筑紫）とイバラを合わせた名前、南九州独特の野イバラの意味です。普通の野イバラに比べて、花が大きく、葉に照りがあるほか、ピンクや白などの花の色があり、熊本県球磨郡錦町の球磨川河川敷は世界最大の自生地です。



多くの人々を魅了するツクシイバラ

この「ツクシイバラ」は、2004年に熊本県レッドデータブックにおいて絶滅危惧種Ⅱ類に分類された種で、一時は盗掘や自然環境変化などで激減しましたが、保護活動の結果、準絶滅危惧種に見直されるまでにその数が回復しています。自生したツクシイバラは、今年公式発見から100周年を迎え、その美しさは多くの人々を感動させています。



球磨川左岸に広がる、自生による群生地

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「100人の動員よりも10人の好きな人」、「100年後の人々にツクシイバラ自生地を引き継ぎたい」との想いから、「ツクシイバラ」の保護活動や地域づくりを目的とした活動を行っています。ツクシイバラ開花時期に向け、年明けから清掃活動や除草作業を行い、ツクシイバラが咲き始める5月中旬から6月上旬までの週末は、自生地にて見学者のためにお茶と漬物で「おもてなし」を行い、ガイドやライトアップも行っています。開花の最盛期には他団体

と連携したスポーツイベントやコンサート・フォトコンテスト・スケッチ大会など多くの来場者で賑わうイベントも開催し、ツクシイバラの保護活動の啓発を行っています。

また、学識者の方を招き、地域の小学校や保育園などにて保護活動についての授業講演を行い、その中で参加者に標語を考えてもらい看板を製作・設置するなど、地域及び関係機関等と密に協働・連携しながら活動しています。



ツクシイバラ公式発見100周年おもてなし



ツクシイバラランニング大会



ツクシイバラスケッチ大会

3 活動の成果や波及効果等

活動を通じてツクシイバラの価値と保護の重要性を更に認識してもらうことで、地域住民の方々のツクシイバラへの愛着が深まっており、ツクシイバラ自生地での除草作業や清掃活動の参加者や見学者のリピーターも増えています。

また、平成24年に開催された国際バラ会議では、世界各国の研究者が見学に来られるとともに、公式メインポスターに「ツクシイバラ」の絵が採用されるなど、注目度は国際的になってきています。

さらには、平成20年10月1日に地域の理解を得てツクシイバラが町花になるとともに、自生地近くの木上駅の副名が「ツクシイバラの里」と命名されるなど、ツクシイバラが地域の宝となり自然環境をPRした町づくりにも繋がっています。



国際バラ会議参加者による視察



町花となったツクシイバラ



「ツクシイバラの里・木上駅」に改名

所在地
熊本県球磨郡錦町木上地先

活動主体及び連絡先
球磨川ツクシイバラの会
(0966-38-1784)

対象となる社会資本
球磨川ツクシイバラ自生地
※管理者：国土交通省
九州地方整備局八代河川国道事務所



喜びの声



受賞者

球磨川ツクシイバラの会
会長 桑原 史佳

コメント

ツクシイバラ公式発見100年の年に素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。会員一同、心から喜んでおります。手作業で始まった手作りの活動により、多くの人々の心と行動が集まり、ツクシイバラを中心に展開しています。これからも「できるしこ」を合言葉に、100年後にも繋がるように、明るく楽しい活動をしていきたいと思っております。

活動内容

- ・除草作業・清掃活動
- ・開花時のおもてなし
- ・次世代へつないでいく取り組み

活動の経緯

- 平成18年 球磨川ツクシイバラの会発足
- 平成20年 自生地の最寄り駅が「ツクシイバラの里・木上駅」になる
錦町の町花になる
- 平成27年 国土交通省から河川協力団体に指定
- 平成29年 ツクシイバラ公式発見100周年記念式典開催

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

河津桜に夢をのせて ～浦々をつなぐピンクの櫛～



大分県 津久見市
四浦を考える会／津久見市

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講
評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

大分県津久見市は、大分県の南東部に位置する海沿いの街で、豊後水道に面した四浦半島や長目半島等の海岸線は、日豊海岸国立公園に指定され、典型的なリアス式海岸の地形となっています。ここでは沿岸に迫るような急峻な山地や、僅かに残る海岸線に道路が整備され、半島へ向かう重要なアクセス道路として、地域住民にとっては欠かすことのできない社会資本の一つとなっています。



リアス式海岸の四浦半島

平成 17 年より、この道路際に、地域の方々によって河津桜が植樹され、満開を迎える 2 月には多くの方々を訪れるようになりました。平成 23 年 4 月の「つくみルカ島」のオープン、また、平成 28 年 4 月に東九州道が北九州市から宮崎市まで繋がったことで、今では、広く県内外からの観光客が訪れるようになり、その数は確実に増加しています。



道路沿いに植樹された河津桜

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

津久見市の中でも高齢化や人口減少が著しい四浦地区では、平成 16 年、大分県を相次いで襲った 3 つの大型台風により、壊滅的な被害を受けました。あまりにも大きな被害であったため、地区の人たちは意気消沈しましたが、四浦地区の有志 18 名により「四浦を元気にしたい、賑やかさを取り戻したい」との思いから「四浦を考える会」が設立されました。会では、平成 17 年より、地域住民や企業、ボランティアなどの協力を得ながら、地区内の主要な道

路沿い等に河津桜の植樹を始め、平成 28 年度末現在、その数は 4600 本にのぼります。地域住民が中心となって草刈や水遣りなどの維持管理を行ったり、地元の中学生在がふるさと教育として植樹を行うなど、活動を通じて地域間交流が生まれています。このような活動を地道に継続させた結果、河津桜の成長とともにその認知度は徐々に高まり、今では、四浦半島の春の風物詩として定着しています。



地域の復興への願いから始めた植樹活動



地元中学生へのふるさと教育

3 活動の成果や波及効果等

平成 24 年度より毎年行われている「豊後水道河津桜まつり」は、平成 29 年 2 月の開催で第 5 回を数え、今では来場者が 7 万人を超えるとともに、桜にちなんだ蒲鉾や饅頭などのお土産が登場するなど、津久見市の観光振興に貢献しています。

また、このような四浦地区での取り組みは市内各所に影響を与え、平成 28 年には、津久見市が「桜観光実行委員会」を設立し、他地区で開催されている「つくみ山桜まつり」との連携により、「河津桜から山桜、ソメイヨシノへと長期間桜観光ができるまちづくり」を目指すなど、四浦地区で始まった活動が、市全体の取り組みへと波及するまでになっています。



「豊後水道河津桜まつり」で披露された宗麟太鼓



桜にちなんだ様々な土産品



県内外から訪れる観光客

所在地
大分県津久見市四浦地区

活動主体及び連絡先
四浦を考える会
(0972-88-2721) ※功労者：小谷 栄作、甲斐 英宏

対象となる社会資本
県道四浦日代線、県道四浦港津井浦線、市道高浜線、市道田平線
※管理者：大分県、津久見市



喜びの声



受賞者

四浦を考える会
会長 小谷栄作

コメント

この度は、「手づくり郷土賞」を頂きありがとうございました。活動当初は、地域の高齢者から「自分たちが生きている間に花ひらくのだろうか」という自虐的な話もありましたが、地域の方々や多くのボランティアに支えられ、7 万人を超す観光客が来場するまでになりました。今後も、地域の発展のため全力で取り組みます。

活動内容

- 河津桜の植樹及び維持管理活動
- 豊後水道河津桜まつり等イベント運営

活動の経緯

- 平成 16 年 四浦を考える会の発足
- 平成 17 年 河津桜の植樹及び維持管理活動の開始
- 平成 25 年 第 1 回豊後水道河津桜まつり開催以降毎年開催

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

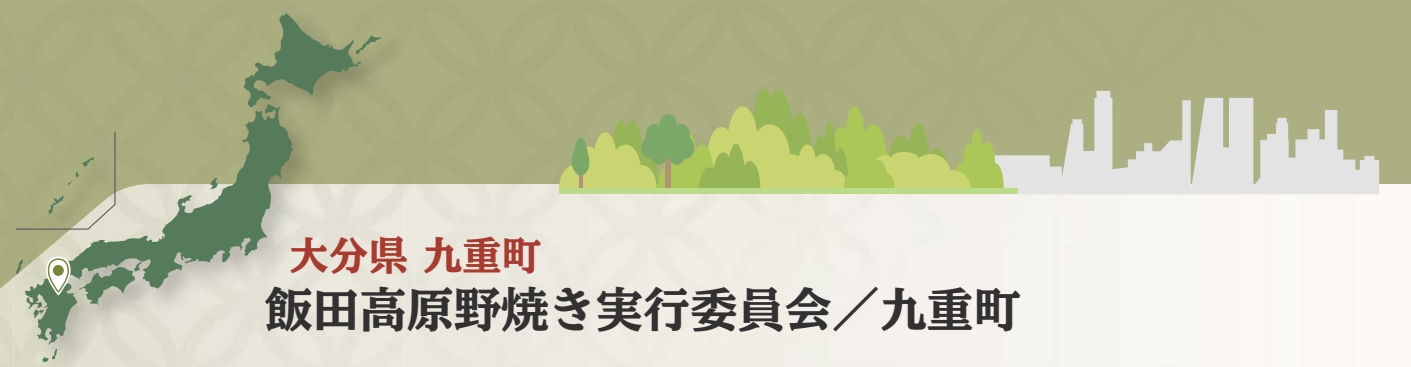
講
評

大賞部門

一般部門

資料編

野焼きによる感動の景観づくり



大分県 九重町
飯田高原野焼き実行委員会／九重町

手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

大分県九重町は、大分県の南西部に位置し、標高800mから1,700mに達する「くじゅう連山」のふもとにあります。その町の多くが阿蘇くじゅう国立公園に指定されており、公園内には、草原による美しい丘陵風景が続く「飯田高原」や、平成17年に、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「タデ原湿原」があります。



やまなみハイウェイから望む飯田高原

このような素晴らしい自然景観を一目見ようと年間を通じて多くの観光客が訪れ、やまなみハイウェイなどの沿道は、九州でも屈指のドライブコースになっています。さらに、全国の実業団や大学、高校の陸上部の合宿地としても知られており、沿道がマラソンコースとして整備されるなど、九重町では、美しい景観をいかしたスポーツツーリズムが展開されています。



美しく草原が広がるタデ原湿原

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

かつては牛馬の採草放牧地等として地域住民により野焼きが行われていましたが、昭和30年代の産業構造の変化や担い手の高齢化により、野焼き文化は衰退しました。このような状況が続く中、「人々が感動する景観を取り戻そう」と平成9年に設立されたのが飯田高原野焼き実行委員会です。

野焼きは、重労働で危険な作業にも関わらず、平成9年から現在に至るまで継続的に行われています。例年、9月～10月にかけて、延べ100名程

度の参加者により延長約13kmの防火帯（延焼を防ぐ帯状の区画）を設置し、3月下旬～4月上旬にかけて、伝統的な手法を用いながら延べ150人程度で野焼きが行われています。多くの住民や企業、団体等の協力を頂きながら活動が進められる一方で、地元小学生に、環境学習を行ったり、防火帯作りを体験させたりするなど、野焼き文化を次世代に継承するための活動も行っています。



伝統的な野焼き手法による火入れ作業



会長による地元小学生等への環境学習

3 活動の成果や波及効果等

当団体の活動範囲は、当初の約400haから、現在、約600haに拡大され、この活動によって維持される沿道からの景観は観光資源として欠かせないものになっています。また、野焼きによって草原や湿原の環境が維持されることや病害虫が駆除されることにより、ヒゴダイやサクラソウなどの希少な植物をはじめ多種多様な動植物が息できるようなったり、乗馬やナイトハイクなどの様々な自然を体感できるイベントが開催されるようになるなど、この地域に様々な効果をもたらしています。

さらには、隣接の「坊ガツル湿原」において実行委員会が立ち上がり、野焼きが復活するなど、当団体の活動は周辺地域に波及しています。



沿道に咲く絶滅危惧種のヒゴダイ

サクラソウ



乗馬体験

ナイトハイク

所在地

大分県九重町

活動主体及び連絡先

飯田高原野焼き実行委員会
(0973-73-0070)

対象となる社会資本

県道11号及び町道筋湯長者原線からの草原景観
※管理者：大分県、九重町

喜びの声



受賞者

飯田高原野焼き実行委員会
会長 高橋 裕二郎

コメント

この度は平成29年度「手づくり郷土賞」に選定いただき、誠にありがとうございます。

九重町の四季の美しさは「春は野焼きの黒、夏は新緑の青、秋は紅葉の赤、冬は雪の白」と表現されます。私達は、一時途絶えた野焼きを復活させることにより美しい草原景観を維持しています。

永く活動を続け、次世代に引き継ぐことが我々の使命だと思っています。今回の受賞を励みに引き続き地域振興に寄与していきたいと思います。

活動内容

- ・野焼き活動の復活、維持
- ・環境教育への協力 等

活動の経緯

平成9年 飯田高原野焼き実行委員会設立
タデ原湿原周辺の野焼きを32年ぶりに復活
以後、野焼き範囲を拡大しつつ活動を継続中



手づくり郷土賞

グランプリ 2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

公園での「まつり」と 周辺の「やすらぎ」空間の創出



沖縄県 名護市
屋部支所管内地域振興会 / 名護市

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

屋部親水公園（呼称：屋部川にじ公園）は、沖縄県名護市の中央を流れる屋部川と西屋部川の合流する河口にあり、南には穏やかな名護湾と北西に安和岳・嘉津宇岳を眺望する風光明媚な場所に立地しています。

当公園は、計画段階から地元の屋部支所管内地域振興会が参画して地域ならではの英知を集結させ、行政と一緒に整備計画の策定を行ない、平成 28 年に供用開始されました。

現在では、近隣の保育園の催し物やお年寄りまでの幅広い年代の住民に利用され、地域住民のやすらぎ空間となっています。



屋部支所管内地域振興会が計画策定段階より参画し、整備された屋部親水公園

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

当地域は、隣接する地域の急激な人口の増加により、住民同士のコミュニティが不足していました。また、地域を流れる河川は上流の乱開発により、赤土などの汚染水が流入する河川でした。このような地域の課題を解決することを目的として、平成 11 年に「屋部支所管内地域振興会」が設立されました。

当会では、公園が整備された後の清掃や植樹など

の維持管理活動を行っており、平成 23 年からは「屋部川七色にじまつり」を開催しています。さらに、平成 28 年からは「屋部川七色にじまつり」において、各地域に伝わる伝統芸能（豊年祭）の披露による各地域の紹介を行なうなど、地域住民のつながりをより一層深める工夫に努めています。



清掃活動の様子



公園の植栽ボランティアの作業状況



伝統芸能の発表

3 活動の成果や波及効果等

屋部川七色にじまつりを通して、コミュニティ空間が創出でき、現在では約 2,000 人が参加する地域交流の場となっています。

さらに、イベント時のカヌー体験や干潟の生物観察は、河川環境を考えるきっかけづくりとなり、地域の自然環境に対する意識の向上に貢献しています。

今後も、維持管理活動や各種イベントなどを通して、「自分たち」の公園意識の高揚や地域文化を身近なもの・誇りとして感じてもらえるよう取り組んでいきます。



地域イベントの利用状況



設置された遊具



カヌー体験と七色放水の様子



干潟の生物観察の様子

喜びの声



受賞者

屋部支所管内地域振興会
会長 岸本 洋平

コメント

公園設置のための活動として「七色にじまつり」を開催し、計画段階から地域ぐるみで関わって来ました。この賞をみんなで喜びたいと思います。子どもの快適空間の施設整備や地域に帰って来なくなるやすらぎのある「ふるさと」をみんなでつくり続けます。

活動内容

地域振興、公園でのまつり開催、清掃活動、植樹活動、こいのぼり掲揚、自然・歴史・文化を活かしたやすらぎ空間創出

活動の経緯

- 平成 11 年 会の設立
- 平成 12 年 公園設置要請
- 平成 23 年 第 1 回「屋部川七色にじまつり」開催
- 平成 26 年 近隣公園へ植樹活動
- 平成 28 年 公園供用開始

所在地

沖縄県名護市屋部 42 番地 3

活動主体及び連絡先

屋部支所管内地域振興会
(0980-52-2610 名護市役所屋部支所)

対象となる社会資本

屋部親水公園（呼称：屋部川にじ公園）
※管理者：沖縄県名護市



手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

年度別テーマ一覧

年度別テーマ一覧 (Part1~Part32)

Part.1 昭和61年度 人と風土が育てた家並 30選 ふるさとが誇りとする橋 30選 ふれあいの水辺 30選	Part.9 平成6年度 人々が集い憩う水辺づくり 30選 ふるさとの文化を育む街角の広場 30選 ふるさとを紹介する道 30選	Part.17 平成14年度 地域整備部門 15選 地域活動部門 11選	Part.25 平成22年度 一般部門 22選 大賞部門 3選
Part.2 昭和62年度 いきいきとした楽しい街並み 30選 ふれあいの並木道 30選 水辺の風物詩 30選	Part.10 平成7年度 コミュニティー部門 30選 自然部門 30選 歴史・文化部門 30選	Part.18 平成15年度 地域整備部門 13選 地域活動部門 10選	Part.26 平成23年度 一般部門 12選 大賞部門 4選
Part.3 昭和63年度 小さなふれあいの広場 30選 ふるさとに恵みを与える川 30選 やすらぎとうるおいのある歩道 30選	Part.11 平成8年度 テーマを設定せず 37選	Part.19 平成16年度 地域整備部門 6選 地域活動部門 11選	Part.27 平成24年度 一般部門 16選 大賞部門 2選
Part.4 平成元年度 いこいとふれあいの道 30選 生活の中にいきる水辺 30選 歴史をいかした街並み 30選	Part.12 平成9年度 テーマを設定せず 40選	Part.20 平成17年度 地域整備部門 8選 地域活動部門 12選 大賞部門 37選	Part.28 平成25年度 一般部門 17選 大賞部門 3選
Part.5 平成2年度 街灯のある街角 30選 生活を支える自然の水 30選 花と緑の手づくりふるさと 30選 ふるさとの坂道 30選	Part.13 平成10年度 テーマを設定せず 38選	Part.21 平成18年度 地域整備部門 7選 地域活動部門 14選 大賞部門 9選	Part.29 平成26年度 一般部門 15選 大賞部門 4選
Part.6 平成3年度 施設部門 30選 素材部門 30選	Part.14 平成11年度 テーマを設定せず 32選	Part.22 平成19年度 地域整備部門 7選 地域活動部門 9選 大賞部門 11選	Part.30 平成27年度 一般部門 (公開審査による選考) 15選 大賞部門 7選
Part.7 平成4年度 暮らしに根づく施設 30選 ふるさとの色と光 30選	Part.15 平成12年度 テーマを設定せず 30選	Part.23 平成20年度 一般部門 13選 大賞部門 2選	Part.31 平成28年度 一般部門 20選 大賞部門 2選
Part.8 平成5年度 自然とふれあう水辺づくり 30選 出合いを演出する街角 30選 ふるさとの風景にとけこむ道 30選	Part.16 平成13年度 地域整備部門 20選 地域活動部門 9選	Part.24 平成21年度 一般部門 17選 大賞部門 2選	Part.32 平成29年度 一般部門 16選 大賞部門 3選

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

手づくり郷土賞
について

グランプリ
2017

講評

大賞部門

一般部門

資料編

栃木県	日光市	「足尾の山に100万本の木を植えよう！」 官民連携による緑化活動
埼玉県	幸手市	遺そう我々の郷土を！伝えよう 100年 後の子ども達へ！
新潟県	長岡市	「越後みしま竹あかり街道」
長野県	駒ヶ根市	天竜川を次世代に引き継ぐ「天竜川ゆめ会議」
三重県	伊勢市	舟参宮の再興いにしへの川みなどに賑 わいをつくる
和歌山県	和歌山市	「水軒堤防の再生」と「市民の公園の実現」
奈良県	五條市	四百年の歴史に磨かれた町なみ
奈良県	大和郡山	古道「七曲道」の整備
島根県	出雲市	甕った出雲大社の門前町ー神門通りー
島根県	江津市	石州赤瓦と歴史を活かしたまちづくり
愛媛県	松山市	復活松原泉ー住民の熱い思いで松原泉・ 小川を再生ー
大分県	中津市	耶馬溪の自然と景観を守る
鹿児島県	さつま町	大水害からの復興(地域の願いを込めて)
鹿児島県	さつま町	光に満ちたまちづくり(ホテルとともに)
沖縄県	中城村	古道ハンタ道(歴史の道)と世界遺産。 郷土を愛し地域をおこすサークル活動

大賞部門

都道府県	市区町村	件名
新潟県	村上市	黒塀プロジェクト(黒塀一枚1000円運動 と緑ー口1000円運動による市民パワ ーのまちづくり)
徳島県	徳島市	かわ普請〜ひょうたん島・青石護岸再生作戦〜
宮崎県	日南市	賑わいを今に〜飢饉城下町の取り組み〜

平成26年度

北海道	札幌市	再興！江差の五月は江戸にもない 〜いにしえ街道の景観を生かすまちづくり〜
福島県	昭和村	室町時代からの伝統技術「からむし生産」 伝承とからむし織姫
東京都	北区	北区・子どもの水辺
東京都	江戸川区	東京湾海水浴場復活プロジェクト -東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活- 水辺空間の創出
愛知県	名古屋市	中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある 水辺空間の創出)
愛知県	豊橋市	豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活か したまちづくり
三重県	伊勢市	宮川流域エコミュージアム
	多気町	
	明和町	
	大台町	
	玉城町	
	度会町	
	大紀町	
滋賀県	高島市	安曇川河畔林の竹林の保全をエコツ アーにした取り組み
大阪府	大阪市	ストリートライブ能で美しいまちづく りと地域の賑わいづくり
岡山県	岡山市	庭園都市おかやま 緑と水の道づくり
愛媛県	今治市	しまなみ海道を活かした自転車まちづ くりプロジェクト 〜地元根ざした、持続可能な地域おこし〜
高知県	四万十市	四万十川と共存するツルの里づくり事業
佐賀県	唐津市	いのち育む豊かな湿地
長崎県	島原市	芝桜による噴火災害からの復興
熊本県	山鹿市	川と街道の歴史を元に先祖伝来！手づ くりの地域興し(下町窓門会)

大賞部門

都道府県	市区町村	件名
神奈川県	川崎市	飛森谷戸〜里「都」山づくりを楽しもう〜
山梨県	北杜市	オオムラサキの里づくり
石川県	輪島市	道の駅千代田ボケツパーク
三重県	多気町	高校生レストラン「まごの店」

平成27年度

北海道	滝川市	「空の波打ち際」の創造 〜大空に一番近いまちづくり〜
東京都	江戸川区	葛西親水四季の道
新潟県	十日町市	大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ
静岡県	静岡市	清水港・みなと色彩計画
京都府	向日市	竹の径・かぐやの夕べ
福岡県	福岡市	エコシティ福岡をめざして「水と緑と まちづくり」
大分県	日田市	市民の手づくりによる賑わいの創出 〜水郷ひた豆田地区(千年あかり)〜

平成28年度

北海道	登別市	奇跡の湿原を次世代へ 〜キウシト湿原の保全と活用〜
岩手県	陸前高田市	桜ライン311〜未来へのまちづくり〜
山形県	新庄市	新庄市エコロジーガーデン 〜先人が築いた歴史を次の世代へ〜
茨城県	鹿嶋市	「鹿嶋神の道」づくり
茨城県	神栖市	不法投棄されていた土地を地元の手で 憩いの場に！夢のひろばづくり
栃木県	足利市	足利の魅力再発見！〜高校生のロケ ツアーリズム〜
栃木県	日光市	日本の近代化を支えた足尾の産業遺産 等を活用した地域おこし
埼玉県	鴻巣市	人もコウノトリも暮めるふるさと鴻巣づくり 〜つたえよう豊かな自然環境を未来の 子どもたちへ！〜
神奈川県	横浜市	地域でつくるエキコンの賑わいとキレ いなまち鴨居
新潟県	関川村	羽越水害の教訓を伝える「えちごせきか わ大したもん蛇まつり」
三重県	多気町	人々の生活とつながりを育む河川 〜佐奈川を美しくする会の取り組み〜
京都府	南丹市	せつぶん草で集落の「誇りと絆」づくり
大阪府	大阪市	密集市街地の小さな広場を活用した地 域防災力向上に向けた挑戦。

広島県	広島市	身近な自然に気づき、川と始める川か ら始まるまちづくり 〜川に近づき、川を利用、川で遊び、 美しい川を創る〜
徳島県	美馬市	カヤックで目指す四国のまほろば 〜吉野川河畔ふれあい広場〜
愛媛県	松山市	We Love 石手川 河川大清掃 〜河川環境改善による四国最大の親水 空間の創出〜
高知県	四万十市	流域住民主体で四万十川の環境保全と 地域活性化の活動
福岡県	朝倉市	郷土の宝・財産「山田堰・堀川用水・ 水車群」を地域で守ろう
宮崎県	延岡市	ふるさとへの熱い思いが奇跡の堤防を産んだ 国場川こいのぼりまつり
沖縄県	那覇市	〜少年に夢を、青年に希望を、お年寄りに誇りを… そんな街に住みたい！〜

大賞部門

都道府県	市区町村	件名
茨城県	日立市	助川山市民の森 ドングリの森づくり
福岡県	北九州市	歴史と海峡を活かしたまちづくり 〜門司港レトロ〜

平成29年度

北海道	稚内市	古き良きものを守る 〜国境の街 稚内の歴史的建造物の保存 とまちづくり〜
岩手県	一関市	「骨村村荘園遺跡」等の保全と地域の活 性化を目指す活動
宮城県	石巻市	石巻南浜津波復興記念公園における市 民の伝承活動
茨城県	古河市	渡良瀬遊水地の未来に向けて
栃木県	栃木市	
栃木県	小山市	
群馬県	野木町	100年の景観づくり(枝垂桜の咲く里への回り道)
埼玉県	板倉町	
埼玉県	加須市	うしづま水辺の楽校 子供達のたくさんの 笑顔、オックスの魅力アップを目指す
新潟県	糸魚川市	
静岡県	静岡市	かのがわ風のテラス 須磨ニュータウン周辺の森を整備し、 癒しの森(場)づくり
静岡県	沼津市	
兵庫県	神戸市	坂越浦の礎を築いた北前船廻船物語 住民自治で創る川西のまちづくり〜 1200人を支え、100人が働き、170 人が関わり、30万人が訪れる郷へ〜
兵庫県	赤穂市	
広島県	三次市	重信川河口域の湿地環境保全〜高校 生の取り組み〜
愛媛県	松山市	
愛媛県	松前町	水辺空間を活かしたまちづくり 〜番田河原の利活用と地域の連携等〜
福岡県	田川市	
熊本県	錦町	球磨川のほとりに咲くツクシイバラ 〜100年後の人々に届けたい〜
大分県	津久見市	河津桜に夢をのせて〜浦々をつなぐピ ンクの櫛〜
大分県	九重町	野焼きによる感動の景観づくり
沖縄県	名護市	公園での「まつり」と周辺の「やすらぎ」空間の創出

大賞部門

都道府県	市区町村	件名
神奈川県	川崎市	「多摩川エコミュージアムプランの推 進」人をつなげる森と川〜ニヶ領せせ らぎ館をまちの広場に〜
徳島県	徳島市	万代中央ふ頭(音楽が紡ぐ港の魅力発信)
大分県	大分市	海と街とのやさしい出会い〜やすらぎの 空間を求めて〜「かたん」みなとまちづくり

精選
ふるさと
手づくり郷土賞

手づくり郷土賞



手づくり郷土賞 HP

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/>

facebook

<https://www.facebook.com/mlit.teдукuri/>

お問い合わせ先

〒100-8918
東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課
TEL 03-5253-8111(代表)